

時間割コード	KB7851	ナンバリング	KB-HUM-131-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	思想・文学				
担当教員（ローマ字表記）	谷口 基				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

近代日本小説の実験性

授業の概要/Course Overview

明治期から昭和期までを視野におさめ、日本の近代小説における実験的な試みについて解説します。作品分析のみならず、背景となった時代や社会との関連性についても触れ、受講者が文化と人間との有機的な関係に思いをめぐらせつつ、各々の世界観を広げることができるようななかたちで文学作品に親しむことができるような手引きとなるようにつとめます。

キーワード/Keyword(s)

小説 神話 民間伝承 深層心理 ミステリ

到達目標/Learning Objectives

文学作品の鑑賞を通じて、微妙な心理のゆらぎを注視する感性と理解力を養い、背景となる社会・歴史の実相に思いをめぐらせるとともに、想像力と文化の重要性について深く考察することができるようになる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1、【授業内容】シラバスを用いたガイダンス。授業内容や評価方法の説明なども行う。
2、【授業内容】「自己」を幻視する／文学テーマとしての「自己像幻視」の例について解説。ミニツツペーパー（小課題への回答を含めてコメントを記す。次回授業の最初に担当教員より反映）あり。全2回
【授業外学修】課題テキストの通読とテーマやプロットに共通性を感じる作品例の探査。
3、【授業内容】「夢」を描く／夢の文法化について。ミニツツペーパー（小課題への回答を含めてコメントを記す。次回授業の最初に担当教員より反映）あり。全2回
2、【授業内容】「越境」する／常識や世界観を相対化する視座について解説。ミニツツペーパー（小課題への回答を含めてコメントを記す。次回授業の最初に担当教員より反映）あり。全2回。
【授業外学修】課題テキストの通読とテーマやプロットに共通性を感じる作品例の探査。
4、「虚構」を築く／フィクションにおける真実の可能性について解説。ミニツツペーパー（小課題への回答を含めてコメントを記す。次回授業の最初に担当教員より反映）あり。全2回
【授業外学修】課題テキストの通読とテーマやプロットに共通性を感じる作品例の探査。
5、【授業内容】「謎」を仕掛ける／物語における「謎」を発見することの意義について解説。ミニツツペーパー（小課題への回答を含めてコメントを記す。次回授業の最初に担当教員より反映）あり。
【授業外学修】課題テキストの通読とテーマやプロットに共通性を感じる作品例の探査。

履修上の注意/Notes

受講希望者が多数になる場合があります。受講者制限はしませんが受講時、さらには入退室のマナーを十分に心がけてください。20分以上の

遅刻は欠席扱いとしますので、注意してください。オフィスアワーは木曜日の昼休みです。

情報端末の活用

特にいらない。つかわなくていい。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：	90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A	80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B	70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C	60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D	60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

授業時提出の小レポートと受講態度（100パーセント）だけです。

教科書/Textbook(s)

備考	「教科書：特になし。授業内で関連資料を配付する。」
----	---------------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7852	ナンバリング	KB-HUM-131-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	思想・文学				
担当教員（ローマ字表記）	八若 壽美子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

日本語を考える（日本語文法）

授業の概要/Course Overview

1. 日本語教育文法について学び、外国語としての日本語の特徴を考察する。
2. 日本語と日本社会・日本文化との関連性を考察する。

キーワード/Keyword(s)

日本語, 日本語教育, 日本語教育文法, 社会言語学

到達目標/Learning Objectives

1. 日本語という言葉がどのような特徴を持っているかを理解できる。
2. 日本語に関する考察を通して日本社会・文化への理解を深めることができる。
3. 日本語教育の観点から日本語を客観的に捉えることができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】
1. ガイダンス、「日本語文法」と「国語文法」（『日本人のための日本語文法入門』第1章）
2. 格助詞（第2章）
3. 自動詞と他動詞（第3章）
4. 受け身文とウチとソト(第4章)
5. アスペクト(第5章)
6. テンス（第6章）
7. ムード（第7章）
8. 確認テスト（45分）授業の総括

【アクティブラーニング】
全授業通して以下のアクティブラーニングを用いて、理解を深める。
（シンク・ペア・シェア）課題を個人、ペア、全体で考察し、考えを共有する。
（グループディスカッション）グループに分かれて、課題を考察する。

【授業外学習】
① 授業前に配布される資料の課題をやって授業に臨むこと。
② 授業後は教科書の該当箇所を読んで復習すること。
③ 第8回の確認テストは配布される資料の課題を中心に出题するので、授業内容を教科書等で再確認し、よく復習して臨むこと。

履修上の注意/Notes

- ・ 2/3以上の出席がない場合は不合格とする。
- ・ 遅刻3回=欠席1回とする。開始後30分以上の遅刻は欠席とみなす。
- ・ 授業中のスマホ等の使用は教員から指示がある場合を除き、原則認めない。ただし、留学生等が辞書として使用する場合は除く。
- ・ 自発的な発言や各授業後に課されるリアクションペーパーの記述も授業参加度の評価の対象となる。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 授業で取り上げた日本語教育文法の項目についての知識を十分に修得し、さらにその項目についての的確な説明ができています。
- A : 授業で取り上げた日本語教育文法の項目についての知識を修得し、さらにその項目について説明ができています。
- B : 授業で取り上げた日本語教育文法の項目についての知識を概ね修得し、概ねその項目について説明ができています。
- C : 授業で取り上げた日本語教育文法の項目についての知識について最低限の修得をしており、その項目について最低限必要な説明ができています。
- D : 授業で取り上げた日本語教育文法の項目についての知識が修得できておらず、その項目について説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

確認テスト:80% 授業貢献度:20%

教科書/Textbook(s)

備考	原沢伊都夫『日本人のための日本語文法入門』（講談社現代新書2012年、740円） ※この他に、授業時にプリント等を配布する。
----	---

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7853	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	歴史・考古学				
担当教員（ローマ字表記）	添田 仁				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

外国人が見た江戸時代

授業の概要/Course Overview

江戸時代に生きた人びとは、西洋文化と出会い、近代化（西洋化）の途をたどるなかで、何を失い、何を得たのか。江戸時代の日本を見た外国人の目を通して、当時の日本社会とその文化の様相を復元するとともに、近代化の過程における日本人の異文化理解の変遷とその特質について、歴史的な観点から論じる。

キーワード/Keyword(s)

日本史 江戸時代 風俗 異文化理解 史料批判 客観性 相対化

到達目標/Learning Objectives

- 1）中学・高校で学んできた「日本史」と大学で学ぶ「歴史学」の違いを理解できる。
2）過去に書かれた記録から、その時代の人びとの発想や情景を読み取ることができる。
3）日本の歴史や文化の特質を、世界的かつ客観的な視点から理解することができる

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1）導入 シラバスを用いたガイダンス／「日本史」と「歴史学」の違い
2）失われた日本の風景
3）日本人の容姿
4）礼儀正しくて下品
5）裸体と性－ヤマトナデシコの性事情－
6）開かれた売買春
7）勤勉となまけ者
8）まとめ－異文化を理解するということ－

毎回授業終了時に（ふり返り）のため、理解したことや不明な点について「リアクションペーパー」を提出する。次回授業の冒頭で、その一部を紹介して、授業内容の理解を深め、共有する。

【授業外学修】

（1）高校の歴史教科書を持っている者は、明治維新期の部分にあらかじめ目を通しておくとよい。
（2）講義資料は授業の中で配布するので、授業前に読んで、分からない用語などはあらかじめ調べておくことが望ましい。

履修上の注意/Notes

プリントを配布し、その内容を説明しながら授業を行う。また、毎回授業の最後に「リアクションペーパー」（授業に対する感想や意見）を提出してもらい、その内容を次回の授業でも紹介して、課題や関心を受講者の間で共有しながら進める。なお、遅刻は認めない。オフィスアワーは木曜日の昼休み。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

- A＋：異文化認識についての基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A：異文化認識についての基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B：異文化認識についての基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C：異文化認識についての基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D：異文化認識についての基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験は行わない。毎回提出してもらう「リアクションペーパー」の内容（評価比率24％）と、授業中に行う「小テスト」（1回予定）の合計点（評価比率76％）で評価する。「リアクションペーパー」・「小テスト」ともに、到達目標1）～3）の理解度を評価の主要な観点とする。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	逝きし世の面影
著者名	渡辺京二
出版社	平凡社
出版年	2005
ISBN	978-4582765526
教材費	1900

参考書2

書名	欧米人の見た開国期日本
著者名	石川榮吉
出版社	風響社
出版年	2008
ISBN	978-4894891210
教材費	2500

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
----------	---

専門分野の学力	◎
課題解決能力	△
コミュニケーション力	△
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7854	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	歴史・考古学				
担当教員（ローマ字表記）	新谷 崇				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

イタリア半島の歴史と文化

授業の概要/Course Overview

地中海の中央に位置するイタリア半島は西洋文明の形成において重要な役目を果たした。そのため、長い歴史を有するこの地の思想や芸術は、グローバルに通じる基礎教養という側面を持つ。本授業は、こうしたイタリア半島の歴史と文化を様々な角度から検討することで、履修者各自の専門分野への接続を図り、われわれの日常と社会を相対化する視点を養うことを目的とする。

キーワード/Keyword(s)

イタリア、歴史、政治、文化、思想

到達目標/Learning Objectives

- イタリア半島の歴史的な流れと文化を理解する。
 - 基本的知識を習得し、時代ごとの主要動向と背景を理解し、それらを大学生としてふさわしい表現を用いて説明できるようになる。
 - 異なる時代、地域、社会、文化の特質を考えることで、我々が生きる現代日本を相対化する視点を養う。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンス

第2回：イタリアという国の外観

第3回：イタリアではどのような言語が話されているか？

第4回：文学と芸術から考えるイタリア

第5回：イタリアの歴史（古代から中世）

第6回：イタリアの歴史（近世から現代）

第7回：教皇のローマ

第8回：イタリアの思想

【授業外学修】

(1) 原則として事前に授業資料に必ず目を通しておくこと。

(2) 各回の授業で紹介された参考図書にも積極的に目を通し、復習に努めること。

(3) 指示された内容だけでなく、自らの知識の度合いや関心に応じて、教科書として指定している書籍等を用いて関連事項を調べ、主体的に知識及び視野を広げること。また、高校世界史の知識が十分ではない履修者は、高校教科書等も利用、持参して、基礎知識の確認をしながら授業に臨むこと。

(4) レポートの作成を目指して、各回の授業では手順などを指示するので、課題に取り組み、その成果を定期的に提出すること。

(5) レポート作成にあたっては、授業全体の内容をよく振り返り、資料を集め、授業内で説明する執筆要項に従い、

論理を組み立てること。その際、資料の収集や理解において困難がある場合は、積極的に助言を求めること。

【アクティブ・ラーニング】

第2回から第8回までの各回冒頭では、前回授業で提出されたレスポンスシートの内容を振り返り、前回までの受講者の理解度・到達点を確認してから新たな内容に入る。

履修上の注意/Notes

- ・前提知識は求めないが、高校「世界史」ならびに「地理」の教科書、資料集を事前に再読するのが望ましい
- ・授業中に参考図書を紹介するので、積極的に手に取ること。
- ・自身の成績に関わるだけでなく他の履修者の迷惑にもなるので遅刻はしないこと。
- ・授業に関する通知は、教務ポータルシステムを通じて送るので、定期的に確認すること。

情報端末の活用

特になし。ただし、課題レポートは教務ポータルシステムを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：イタリア半島の歴史と文化に関わる基本的な知識を十分に修得し、学術的な表現で論理的に説明できている。
- A：イタリア半島の歴史と文化に関わる基本的な知識を修得し、学術的な表現で論理的に説明できている。
- B：イタリア半島の歴史と文化に関わる基本的な知識を概ね修得し、学術的な表現で論理的に説明できている。
- C：イタリア半島の歴史と文化に関わる基本的な知識について最低限の修得をしており、学術的な表現で論理的に説明できている。
- D：イタリア半島の歴史と文化に関わる基本的な知識が修得できておらず、適切な説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

レポート：70％／各回授業におけるレスポンスシートの内容：30％

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	イタリア史
著者名	北原敦編
出版社	山川出版社
出版年	2008
ISBN	9784634414501
教材費	

参考書2

書名	はじめて学ぶイタリアの歴史と文化
著者名	藤内哲也編
出版社	ミネルヴァ書房

出版年	2016
ISBN	9784623072675
教材費	

参考書3

書名	教養のイタリア近現代史
著者名	土肥秀行, 山手昌樹編
出版社	ミネルヴァ書房
出版年	2017
ISBN	9784623080212
教材費	

参考書4

書名	近代イタリアの歴史：16世紀から現代まで
著者名	北村暁夫, 伊藤武編
出版社	ミネルヴァ書房
出版年	2012
ISBN	9784623063772
教材費	

参考書5

書名	イタリア文化55のキーワード
著者名	和田忠彦編
出版社	ミネルヴァ書房
出版年	2015
ISBN	9784623072682
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	△
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB7855	ナンバリング	KB-HUM-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	歴史・考古学				
担当教員（ローマ字表記）	瀧澤 利行				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

日本の医療史

授業の概要/Course Overview

日本の医療は、中国大陆や朝鮮半島の医療文化の影響を受けながら，江戸時代以降に独自の発展を遂げてきた。明治維新前後からドイツ医学，第2次世界大戦以降はアメリカ医学の影響を受けながら，今日では平均寿命が世界でも最高水準の国になっている。そのような成果を出すことができた要因とそれにもかかわらず存在している日本の医療の課題について，医療の歴史のトピックスの中から考察する。

キーワード/Keyword(s)

日本の医療思想，医学教育，中国医学，ドイツ医学，アメリカ医学，医療文化

到達目標/Learning Objectives

1)日本の江戸時代以降の医療の発展の特徴を説明することができる。
2)明治以降の日本の医学の近代化の影響が今日の医療システムに与えている影響を説明することができる。
3)日本社会にとっての望ましい医療のあり方について自分の意見を述べることができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンス，医療とは何か ―	
【授業内容】医学・医療・呪術の概説を行い、医学の歴史的発展段階を学ぶ。	
【授業外学修】過去に履修した高等学校科目「日本史」における江戸時代の文化史について，確認しておくこと。	
第2回：江戸時代の医療	
【授業内容】江戸時代の医療の実像 ―日本の伝統と西洋文化の影響―	
【授業外学修】過去に履修した高等学校科目「日本史」における江戸時代の文化史について，確認しておくこと及び	前回の授
業内容のプリントによって医学の発展形式について確認しておくこと。	
第3回：幕末期の西洋医学受容の実態を知る	
【授業内容】映像によって江戸時代における西洋医学知識の受容の実態を学ぶ。	
【授業外学修】前回の授業内容のプリントによって江戸時代の医学の概要について確認しておくこと、および江戸時	代後期の
西洋医学受容の背景をインターネットなどを通じて各自知識を深めること。	
第4回：明治維新と医療 科学的医療の受容と展開	
【授業内容】明治維新以後の西洋化の流れの中での医学の急速な近代化の過程を学ぶ。	
【授業外学修】前回の授業内容のプリントによって江戸時代の医学の概要について確認しておくこと、および明治維	新の歴史
的意義について各自で認識を深めること。	
第5回：西洋医学の中の日本の自立	
【授業内容】西洋医学の影響のもとで日本医学が自律性を有していたことを映像を通じて学ぶ。	
【授業外学修】前回の授業内容のプリントによって明治時代の医学の概要について確認しておくこと。	
第6回：大正・昭和前期と医療	

【授業内容】第1次・第2次世界大戦下の日本の医療の展開を学ぶ。
【授業外学修】前々回の授業内容のプリントによって明治時代の医学の概要について確認しておくこと。
第7回：戦争と医療
【授業内容】医学が戦争の遂行に関与した歴史を映像を通じて学ぶ。
【授業外学修】前回の授業内容のプリントによって大正・昭和前期の医学の概要について確認しておくこと。
第8回：現代の医療
【授業内容】第2次世界大戦後に発展した戦後日本の医療の特徴と課題を学び、現代の医療問題を考える契機とする。
【授業外学修】前々回の授業内容のプリントによって大正・昭和前期の医学の概要について確認しておくこと。

履修上の注意/Notes

授業中にパワーポイントを使用することがあるので視力・聴力等に課題のある学生は教室の前方で受講するように努力してください。
--

情報端末の活用

情報端末は使用しない。

成績評価基準/Evaluation criteria

A＋：日本の医学の発展に関する基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A：日本の医学の発展に関する基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B：日本の医学の発展に関する基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C：日本の医学の発展に関する基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D：日本の医学の発展に関する基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

授業の内容にかかわる5つの課題から1つの課題を選択し、小レポートを作成する。（100点）
--

教科書/Textbook(s)

備考	参考書：酒井シヅ『医学史への誘い 医療の原点から現代まで』診療新社，2000年 参考書：新村拓『医療化社会の文化誌 生き切ること・死に切ること』法政大学出版局 1998 参考書：新村拓『日本医療史』（編）吉川弘文館 2006
----	--

参考書/Reference Book(s)

参考書1	
書名	『医学史への誘い 医療の原点から現代まで』
著者名	酒井シヅ
出版社	診療新社
出版年	2000
ISBN	
教材費	

参考書2	
書名	医療化社会の文化誌 生き切ること・死に切ること
著者名	新村拓

出版社	法政大学出版局
出版年	1998
ISBN	
教材費	

参考書3

書名	日本医療史
著者名	新村拓
出版社	法政大学出版局
出版年	2006
ISBN	
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB7856	ナンバリング	KB-HUM-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間科学				
担当教員（ローマ字表記）	塚原 伸治				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

現代民俗学

授業の概要/Course Overview

民俗学と聞けば、古くさい文化について扱う学問、あるいは古いものを穿鑿する学問という印象があるかもしれない。しかし、実際の民俗学は、私たちが生きる現代社会や日常について探究する学問へと大きく変貌しつつある。この講義では、民俗学にはじめて触れる受講者を対象に、現代民俗学の視点について概説する。

キーワード/Keyword(s)

民俗学、伝統、近代、日本社会、現代

到達目標/Learning Objectives

- （１）民俗学の視点から私たちの日常を問い直すことができる。

（２）民俗学の近年の研究動向について理解する。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回 シラバスを用いたガイダンス・この授業の方針
第2回 民俗学とはなにかー視点と方法ー
第3回 民俗学とはなにかー日本の民俗学史ー
第4回 伝統とはなにか
第5回 現代社会と伝統ー創られた伝統ー
第6回 現代社会と伝統ー老舗の近代ー
第7回 伝統を生きる
第8回 まとめとテスト

【授業外学習】

- ・ 授業後に教授情報ポータルシステムに授業用パワーポイントをアップするため、目を通して復習すること。
- ・ 講義中に主要な文献や研究者に言及するので、目を通すことで、理解を深めてほしい。
- ・ 本講義は暗記によって知識を増やすことを目的としていない。民俗学的な視点を得ることで、これまでとは違った見方で世の中のことを考えられるようになるのが目的である。復習ではそのことに注意しながら、身近な日常について民俗学の視点から考えてみるというトレーニングをしてほしい。

【アクティブ・ラーニング】

- ・ 毎回、授業で理解したことや疑問点をリアクションペーパーとして提出する。各回の講義においてリアクションペーパーの内容に適宜言及することで、理解をより深めることを目指す。

履修上の注意/Notes

・授業中の積極的な発言を望みます。質問等についても積極的に受け付けますので、授業終了後あるいは、適宜メール（アドレスは授業中に提示）にてアポイントメントをとってください。

情報端末の活用

授業中にPCは使用しない。ただし、ノートの代わりにPCやタブレット等を使用することは認める。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：民俗学の歴史と現状について十分に理解し、現代民俗学的な視点をもって現代社会の諸現象について説明することができる。
- A：民俗学の歴史と現状について理解し、現代民俗学的な視点について説明することができる。
- B：民俗学の歴史と現状について理解しており、説明することができる。
- C：民俗学の歴史と現状について、最低限の理解をしている。
- D：現代民俗学の歴史と現状について理解していない。

成績の評価方法/Grading

授業中に提出するリアクションペーパー：50%
期末試験：50%

教科書/Textbook(s)

備考	教科書；特に指定しない
----	-------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	〈人〉に向きあう民俗学
著者名	門田岳久, 室井康成 編
出版社	森話社
出版年	2014
ISBN	978-4864050654
教材費	2300

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

○

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7857	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間科学				
担当教員（ローマ字表記）	細川 美由紀				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

心理学入門

授業の概要/Course Overview

「心理学」とひとことで言ってもその領域は多岐にわたります。この講義では、これらの心理学の領域の中から代表的なトピックスを学ぶことを通じて、私たちの日々の行動や心の動きを振り返ることや、自分や周りの人たちを理解するヒントを得ることをねらいとしています。

キーワード/Keyword(s)

知覚、記憶、学習、情動、適応、性格

到達目標/Learning Objectives

- ①心理学で用いられる基本的な用語や概念を理解することができる。
- ②講義で学んだトピックスについて、自分の行動や日常生活の事象と結び付けて考えることができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンス、心理学とは何か

第2回：知覚・感覚の心理学

第3回：記憶の心理学

第4回：学習の心理学

第5回：情動の心理学

第6回：適応の心理学

第7回：性格の心理学

第8回：テスト(45分)、テストの振り返り(45分)

【授業外学修】

（１）各授業で取り扱う内容について、キーワードで示してある用語について、心理学に関連するテキスト類の該当するトピックスを読んでおくことが望ましい。

（２）授業後、新たに疑問に感じたことなどは、テキストや学術論文等を基に調べることが望ましい。

【アクティブ・ラーニング】

第2回～第7回：（小課題）により自身の身の回りの出来事をからめながら授業の振り返りを行う。

第2回・第3回・第7回：（実験のデモンストレーション）により心理実験を実際に体験する。

第4回：（クイズ形式授業）により一部の授業内容をクイズ形式にて問う。

履修上の注意/Notes

30分以上の遅刻は欠席とみなすので注意すること。個別の質問等は授業中および終了後に受け付ける。

情報端末の活用

--

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 心理学の基本的な知識と考え方を十分に修得し, さらにその仕組みについて説明できている。
- A : 心理学の基本的な知識と考え方を修得し, さらにその仕組みについて説明できている。
- B : 心理学の基本的な知識と考え方を概ね修得し, さらにその仕組みについて説明できている。
- C : 心理学の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており, さらにその仕組みについて説明できている。
- D : 心理学の基本的な知識と考え方が修得できておらず, さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

第8回目に試験を実施する。評価における比率は、テスト得点70%(評価の観点は到達目標の①)、授業の際に実施した小課題30% (評価の観点は到達目標の②) とする。なお、提出されたレポート(任意)の内容により、最大10点まで加点される場合がある。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書 ; 特になし
----	------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB7859	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	メディア文化				
担当教員（ローマ字表記）	鈴木 一史				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

ことばを探す<メディア・教科書>

授業の概要/Course Overview

私たちが日常使う言葉について、どの程度他人と意味や感覚を共有しているだろうか。この授業では、使用語彙について内省するとともに、データベースを使って、教科書やメディアと言葉の関係を考える。個人個人の語彙の内省から始め、様々なメディアに現れる言葉を追っていく。特に後半は個々の言語課題を設定して、その課題を解決する。同時に言語使用者としての社会性を身に付けるとともに、国語教育に関わる基礎的な力も育成する。

キーワード/Keyword(s)

使用語彙、表現語彙、学習語彙、メディア、教科書、学習指導要領、コミュニケーション、敬語、学校生活

到達目標/Learning Objectives

- ・自己の言語使用に関する内省を行い、他者と協議することができる。（どのような意味で使っているか、どのような文脈で使っているか、どのような感化的内包を持っているか）
 - ・言語データベースについての基礎的な知識を持ち、使用方法を理解している。
 - ・言語とメディアの関係について、課題を明確にし、解決に向けた調査・分析・発表をすることができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：【授業内容】シラバスを用いたガイダンス 使っている言葉を内省する
 【授業外学修】自分の言語体験を内省し、使用語彙と理解語彙について考察する。

第2回：【授業内容】形容詞・形容動詞について、他者との相違を文脈やイメージを観点として考える。
 【授業外学修】身の回りの言語情報を収集し、形容詞と副詞について言葉を集める。
 【アクティブ・ラーニング】（グループ・ディスカッション）グループ・ディスカッションをすることで、他者との相違を考察する。

第3回：【授業内容】副詞について、他者との相違を文脈やイメージを観点として考える。
 【授業外学修】新聞などのメディアの中や自分が習った教科書教材の中から副詞を抽出し、その意味と影響・効果について考察する。
 【アクティブ・ラーニング】（グループ・ディスカッション）グループ・ディスカッションをすることで、他者との相違を考察する。

第4回：【授業内容】接続表現について、他者との相違を文脈やイメージを観点として考える。
 【授業外学修】今まで書いた作文などをもとに、自分の文章を振り返り、接続詞の機能を確認する。
 【アクティブ・ラーニング】（グループ・ディスカッション）グループ・ディスカッションをすることで、他者との相違を考察する。

第5回：【授業内容】言語データベースについての概要を知り、メディアとの関連を考察する。
 【授業外学修】コーパスについての基礎文献・基礎情報を学修し、コーパス設計について理解する。

第6回：【授業内容】課題発表1 言語データベースを用いた事例研究・発表
【授業外学修】語彙分析（難易度・頻度 等）を行ってくる。
【アクティブ・ラーニング】（ディスカッション）各グループでの課題について発表・協議する。

第7回：【授業内容】課題発表2 言語データベースを用いた事例研究・発表
【授業外学修】自分のレポートを修正し、不備を修正する。
【アクティブ・ラーニング】（ディスカッション）各グループでの課題について発表・協議する。

第8回：【授業内容】まとめ（45分） レポートテスト（45分）

履修上の注意/Notes

- ・予習・復習は必ず行うこと。・遅刻は出席と認めない。・オフィス・アワー：木曜日2講時（教育学部D棟404）
- ・本授業の内容は言語的課題発見と課題解決に多くを割くため、各個人での言語環境に対する情報収集を敏感に行っておくこと。

情報端末の活用

- ・講義資料は教務情報ポータルシステムで事前配信する。
- ・毎回の小テスト（内省・振り返り）の提出は教務ポータル上で行うため、P C, スマートフォン等を持参すること。
- ・課題レポートについては、教務情報ポータルシステムを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A +：語彙とデータに関する基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらに個人言語体系を把握し内省できている。
- A：語彙とデータに関する基本的な知識と考え方を修得し、さらに経験的根拠に基づいて説明できている。
- B：語彙とデータに関する基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらに自分の使用語彙と関連付けて理解できている。
- C：語彙とデータに関する基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらに自分の言葉で説明できている。
- D：語彙とデータに関する基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

- ・毎回の小テスト（内省・振り返り）記述（50%）、課題発表（20%）、最終レポート（30%）によって評価する。ただし、最終テストを放棄した場合は、単位放棄とみなす。
- ・小テストの評価観点：授業内容の正確な把握、自己の内省的記述
- ・課題発表の評価観点：グループワークへの貢献、関連知識との融合性
- ・最終レポートの評価観点：客観的データに基づく、自己の言語的内省とメディア言語との相違性の表現に関する的確さ

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：特になし。授業内で関連資料を配付する。
----	-------------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	講座日本語コーパス
著者名	前川喜久雄 監修
出版社	朝倉書店

出版年	2015
ISBN	978-4254516043
教材費	3700

参考書2

書名	中学校国語言語活動アイデア事典：生徒がいきいき動き出す！
著者名	鈴木一史 編著
出版社	明治図書出版
出版年	2016
ISBN	978-4181968144
教材費	1900

参考書3

書名	光村の国語広がる！漢字の世界
著者名	青山由紀 編；岸田薫 編；鈴木一史 編；阿辻哲次 監修；高木まさき 監修；棚橋尚子 監修
出版社	光村教育図書
出版年	2012
ISBN	978-4895727778
教材費	3200

参考書4

書名	国語教師のための語彙指導入門
著者名	鈴木一史 著
出版社	明治図書出版
出版年	2019
ISBN	978-4182467110
教材費	1900

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

中等教育学校で10年以上の教諭経験を持つ教員が、その経験をいかし、教育現場の実践を事例にして社会の変化に対応した優れた日本語運用能力をもつ人材を育成する。

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7860	ナンバリング	KB-HUM-132-GEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	メディア文化				
担当教員（ローマ字表記）	アンドレエフ アントン				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

Vlogs as Internet Media (A)

授業の概要/Course Overview

Students view, discuss and analyze popular English vlogs in terms of language, structure, message, marketing strategy etc., trying to grasp their role as a new type of influential Internet media

キーワード/Keyword(s)

Internet, media, influencers, slang, marketing strategy

到達目標/Learning Objectives

- ・ Students are able to understand the message and content of popular English vlogs
- ・ Students have advanced media literacy and ability to critically analyze vlogs as a new type of Internet media

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1st lecture : 【Classwork】 Lecturer's and students' self-introduction; about the course; about vlogs as a kind of Internet media
【Homework】 Watch Video 1, selected by the Lecturer

2nd lecture : 【Classwork】 ①Watch the video in class ②Guided discussion about the language, message, strategy, etc.③Students confer and choose Video 2

【Homework】 Watch Video 2

3rd lecture 【Classwork】 ①Watch Video 2 in class②Guided discussion about the language, message, strategy, etc.③Students confer and choose Video 3

【Homework】 Watch Video 3

4th lecture 【Classwork】 ①Watch Video 3 in class ②Guided discussion about the language, message, strategy, etc.③Students confer and choose Video 4

【Homework】 Watch Video 4

5th lecture 【Classwork】 ①Watch Video 4 in class ②Guided discussion about the language, message, strategy, etc.③Students confer and choose Video 5

【Homework】 Watch Video 5

6th lecture 【Classwork】 ①Watch Video 5 in class ②Guided discussion about the language, message, strategy, etc.③Students confer and choose Video 6

【Homework】 Watch Video 6

7th lecture 【Classwork】 ①Watch Video 6 in class②Guided discussion about the language, message, strategy, etc.③Students confer and choose Video 7

【Homework】 Watch Video 7

8th lecture 】 ①Watch Video 7 in class ②Guided discussion about the language, message, strategy, etc.③Wrap-up session (No test)

履修上の注意/Notes

None

情報端末の活用

Students are adviced to bring WiFi-enabled mobile devices with them.

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : Student's knowledge and performance exceed the learning objectives

A : Student's knowledge and performance perfectly meet the learning objectives

B : Student's knowledge and performance skills almost meet the learning objectives

C : With a continuous effort student's knowledge and performance are bound to meet the learning objectives

D : Student's knowledge and English skills are far from meeting the learning objectives

成績の評価方法/Grading

class contribution (100%)

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	◎
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

English

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7861	ナンバリング	KB-HUM-131-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	思想・文学				
担当教員（ローマ字表記）	宮崎 尚子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

日本近代文学

授業の概要/Course Overview

日本の近代学を通して日本の伝統的な言語文化について学ぶ。近代化の実情を知り、その上で夏目漱石の作品を読む。芥川龍之介の作品を通して常識を疑う視点を養い、葉山嘉樹の作品を通してプロレタリア文学についての認識を深める。川端康成の作品ではモダニズム文学を理解し、北條民雄の作品ではハンセン氏病と国家の関係について、遠藤周作の作品では独特なキリスト教理解を通して日本の抱える問題についての理解を深め、世界を俯瞰する広い視野を育てる。
--

キーワード/Keyword(s)

近代、夏目漱石、芥川龍之介、葉山嘉樹、川端康成、北條民雄、遠藤周作

到達目標/Learning Objectives

・近現代文学の作家についてそれぞれの特質について説明できるようになる。 ・近現代文学の作家についてそれぞれの背景について説明できるようになる。 ・日本文学の特質について説明できるようになる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

（１） ガイダンス「近代とは」 ～富国強兵と西欧化～ （２） 夏目漱石の教員時代（「吾輩は猫である」「草枕」「三四郎」など） ～個人主義と近代～ （３） 芥川龍之介「桃太郎」 ～多角的な視点、常識への懐疑～ （４） 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」 ～プロレタリア文学とその周辺～ （５） 川端康成「伊豆の踊子」 ～モダニズム文学とその周辺～ （６） 北條民雄「いのちの初夜」 ～ハンセン氏病と国家～ （７） 遠藤周作「沈黙」 ～日本的なキリスト教理解～ （８） 総括 ～グループの総括（45分）／各自のミニレポート作成（45分）～ 【授業外学修】

- (1) 事前に取り扱う作品を読んで所感をまとめておく。
- (2) 作品の先行論文や歴史的背景について調べておく。
- (3) 総括で出た課題について調べておく。
- (4) 作品を通して何を伝えることができるか自分の考えをまとめておく。

【アクティブ・ラーニング手法】

・学生同士による話し合いと発表を行い、まとめを文章として提出する。

履修上の注意/Notes

- ①自分の考えをまとめる。
- ②遅刻 2 回は欠席 1 回とする。

情報端末の活用

なし

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 近代文学の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A : 近代文学の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B : 近代文学の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C : 近代文学の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D : 近代文学の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

- ①毎回の発言及び積極的参加姿勢（ミニレポート） 40パーセント
- ②総括時のレポート 60%
- ③8回目後半の期末試験は行わない。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：無し。（ただし以下の作品を読んでおくこと。） 参考書（作品）：夏目漱石「吾輩は猫である」「草枕」「三四郎」、芥川龍之介「桃太郎」、葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」、川端康成「伊豆の踊子」、北條民雄「いのちの初夜」、遠藤周作「沈黙」
----	--

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○

地域活性化志向	
---------	--

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	課題図書を読んてくること。
--------	--	-------	---------------

時間割コード	KB7862	ナンバリング	KB-HUM-131-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	思想・文学				
担当教員（ローマ字表記）	富澤 萌未				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

平安文学作品における子どもたち

授業の概要/Course Overview

平安時代の文学作品に登場する子どもが現れる場面を丁寧に読んでいく。
 そのための基礎知識、調査・研究方法についても学ぶ。

キーワード/Keyword(s)

日本古典文学・平安時代・物語・日記・子ども

到達目標/Learning Objectives

- ①日本古典文学に関する基礎知識を習得することができる。
 ②日本古典文学に親しみ自分なりに鑑賞することができる。
 ③日本古典文学に対する自分の考えを文章にまとめることができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：【授業内容】シラバスを用いたガイダンス、「子ども」とは
 第2回：【授業内容】和歌を詠む子ども（土佐日記）
 第3回：【授業内容】舞を舞う子ども①（古記録と蜻蛉日記）
 第4回：【授業内容】舞を舞う子ども②（うつほ物語）
 第5回：【授業内容】舞を舞う子ども③（源氏物語）
 第6回：【授業内容】遊ぶ子ども①（うつほ物語、源氏物語）
 第7回：【授業内容】遊ぶ子ども②（堤中納言物語）
 第8回：【授業内容】まとめ（これまで扱った場面をもとに調査したことや自分の考えを小レポートとしてまとめる）（45分）

【授業外学修】各回の授業外学修の方法
 予習：授業で扱う作品のあらすじを参考書などでつかんでおく。
 高等学校で習得した古典文法、古典単語、古文常識、古典文学史を復習しておく。
 復習：授業で配った資料を読み直し、調査して自分なりの考えをまとめておく（リアクションペーパーを次の授業で提出する）。授業で扱った作品は、授業では触れなかった場面も目を通しておく。

【アクティブ・ラーニング】
 2～8回の授業でリアクションペーパーの提出を求める。

履修上の注意/Notes

・ 3 分の 2 以上の出席を前提とする（遅刻・早退をした場合は 2 回で欠席とする）。

情報端末の活用

8 回目でアンケートを実施する予定のため、PC、スマートフォン等を持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：日本古典文学に関する基礎知識を十分に習得し、自分の考えを極めて高いレベルで文章にまとめることができる。
A：日本古典文学に関する基礎知識を習得し、調査したことや自分の考えを高いレベル以上で文章にまとめることができる。
B：日本古典文学に関する基礎知識を概ね習得し、調査したことや自分の考えを概ね文章にまとめることができる。
C：日本古典文学に関する基礎知識を最低限習得し、調査したことや自分の考えを最低限文章にまとめることができる。
D：日本古典文学に関する基礎知識を概ね習得しておらず、調査したことや自分の考えを文章にまとめることができない。

成績の評価方法/Grading

リアクションペーパー：50%（リアクションペーパーについては【授業及び授業外学修】参照） 小レポート：50%（授業で学んだ古典文学を読むための基礎知識、調査・研究方法が身についているか確認する）

教科書/Textbook(s)

備考	特になし。プリント配布。参考書については、各回の授業において提示する。
----	-------------------------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	千年の百冊 = 100 books for 1000 years : あらすじと現代語訳でよむ日本の古典100冊スーパーガイド
著者名	鈴木健一 編
出版社	小学館
出版年	2013
ISBN	9784093882767
教材費	2800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7863	ナンバリング	KB-HUM-131-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	思想・文学				
担当教員（ローマ字表記）	八若 壽美子, 安 龍洙				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

日本語を考える（日本語の諸相）

授業の概要/Course Overview

1.日本語について日本社会と文化と関連付けてその特徴を考察する。 2.外国語としての日本語の諸相について考察する。
--

キーワード/Keyword(s)

日本語、社会言語学、日本語教育、日本語と社会、外国語としての日本語

到達目標/Learning Objectives

1.日本語について日本の社会と文化と関連付けて捉えることができる。 2.日本語教育の観点から日本語を客観的に捉えることができる。 3.外国語としての日本語を客観的に捉えることができる。
--

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回. シラバスによるガイダンス、社会言語学の視点から日本語を考える（八若） 第2回. 地域に根ざした言葉(p.47～71）（八若） 第3回. 話し手に根ざした言葉(p.73～100）（八若） 第4回. 聞き手・状況に合った言葉(p.101～132）（八若） 第5回. 日本語と日本人の言語行動 （安） 第6回. 日本語と日本語史 （安） 第7回. 日本語と日本型コミュニケーション （安） 第8回. 日本語と日本語学習者 確認テスト （安） 【アクティブラーニング】 全授業通して以下のアクティブラーニングを用いて、理解を深める。 （シンク・ペア・シェア）課題を個人、ペア、全体で考察し、考えを共有する。 （グループディスカッション）グループに分かれて、課題を考察する。 【授業外学習】 第1回～4回は 配布される資料の課題をやって授業に臨むこと。授業後は教科書の該当箇所を読んで復習すること。 第5回～8回は、事前に出された課題・問題についての自分なりの解答を用意して授業に臨むこと。自分が用意した解答と模範解答を比較しながら復習すること。

履修上の注意/Notes

①2/3以上の出席がない場合は不合格とする。②遅刻3回=欠席1回とする。開始後30分以上の遅刻は欠席とみなす。③第1回～4回は教科書(石黒圭(2013)『日本語は「空気」が決める 社会言語学入門』光文社 840円)を購入し、必ず授業時に持ってきてください。

※本授業は「日本語教育プログラム」の必修科目であるため、履修者数が多数である場合同プログラム履修予定の人文社会科学部、教育学部の学生を優先する。

【オフィスアワー】 八若(月4講時)/ 安 (水3講時)

情報端末の活用

授業でPC等は使用しない

成績評価基準/Evaluation criteria

A + : 日本語教育の観点から見た日本語の諸相についての基本的な知識を十分に修得し、さらにそれに基づいた分析・説明ができています。

A : 日本語教育の観点から見た日本語の諸相についての基本的な知識を修得し、さらにそれに基づいた分析・説明が適格にできています。

B : 日本語教育の観点から見た日本語の諸相についての基本的な知識を概ね修得し、さらにそれに基づいた分析・説明ができています。

C : 日本語教育の観点から見た日本語の諸相についての基本的な知識について最低限の修得をしており、さらにそれに基づいた分析・説明ができています。

D : 日本語教育の観点から見た日本語の諸相についての基本的な知識が修得できておらず、さらに分析・説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

①第1回～4回は レポート40% 授業貢献度(振り返りシートを含む)10%

②第5回～8回は確認テスト50%

③期末試験は実施しない。

教科書/Textbook(s)

教科書1	
書名	日本語は「空気」が決める：社会言語学入門
著者名	石黒圭 著
出版社	光文社
出版年	2013
ISBN	9784334037468
教材費	840
備考	①1回～4回 (上記教科書を必ず購入すること)。この他に、授業時にプリント等を配布する。 ②5回～8回は、適宜資料を配布する。

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎

コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7864	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	歴史・考古学				
担当教員（ローマ字表記）	中田 潤				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

ヨーロッパの歴史 近代以降のドイツを中心に

授業の概要/Course Overview

「現代に生きる私たちは、過去を主体的にとらえることなしに未来への展望をたてることはできない」これはイギリスの外交官でありまた歴史家でもあった、ある人物の言葉である。彼の言葉に従って、現代社会の意味を理解するために、過去の社会を検討してみたい。具体的にはヨーロッパ近現代社会の成立過程をドイツを中心に取り扱いしていく。

キーワード/Keyword(s)

ヨーロッパ，第一次世界大戦，第二次世界大戦，国民国家，民族対立，ナチズム，ドイツ，ホロコースト，公共圏，大衆社会，国際政治，平和

到達目標/Learning Objectives

- 1．ヨーロッパにおける国民国家体制と国際秩序の特徴について理解できるようになる
- 2．現代社会の持つ歴史的な構造とその問題点を理解する
- 3．その上で、自律的かつ戦略的な意思決定ができる主体とはいかなるものか、考察できるようになる

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンス
第2回：ジャガイモから読み解くヨーロッパの歴史
第3回：建築から見るヨーロッパの歴史：古代ギリシャからゴシックまで
第4回：建築から見るヨーロッパの歴史：ルネサンスからポスト・モダンまで
第5回：第一次世界大戦後の国際関係とナチズム体制
第6回：ホロコースト
第7回：ドイツにおける原子力問題の歴史：成長至上主義と市民社会
第8回：エコロジーと再生可能エネルギーの歴史：バイオマス発電を事例に

【授業外学修】予習：次回の内容について，参考文献の関係箇所を読んでおく．復習：自らの作成したノート，参考文献の関係箇所を読み直す．それでも理解できなかった点はオフィスアワー等を活用して，積極的に教員に質問する．さらなる専門性を深めたいと考える場合，積極的に教員の門戸を叩いてください．講義のレベルとは比較にならない世界が，そこにはあります．

【アクティブ・ラーニング】毎回コメントシートの提出

履修上の注意/Notes

履修に際しての予備知識は特に要求しませんが，高校で歴史の授業に比較して深い内容に立ち入ることになります．そこで，主体的な学習を可能にするために，下記の参考文献の他，講義の際に指定する文献を平行して読み進めて頂きたいと思います．遅刻は認めません．オフィス

アワーは水曜日の昼休みとアポイントメントをとった上で随時です。（アポイントは各回の講義の終了後をお願いします）

情報端末の活用

講義資料は教務情報ポータルシステムで配信するので、P Cを準備しておくこと。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : ヨーロッパの歴史の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A : ヨーロッパの歴史の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B : ヨーロッパの歴史の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C : ヨーロッパの歴史の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D : ヨーロッパの歴史の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

コメントシートの内容等の平常点40%および期末レポート60%。ともに、到達目標 1 ～ 3 の理解度を評価の主要な観点とする。コメントシートおよび期末レポートの課題内容については授業時間内に説明する。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	現代の欧米世界：文献解説：西洋近現代史 3
著者名	中野隆生, 中嶋毅 共編
出版社	南窓社
出版年	2011
ISBN	9784816503955
教材費	1714

参考書2

書名	二つの世界大戦
著者名	木村靖二 著
出版社	山川出版社
出版年	1996
ISBN	463434470X
教材費	750

参考書3

書名	国民国家とナショナリズム
著者名	谷川稔 著
出版社	山川出版社
出版年	1999

ISBN	9784634343504
教材費	729

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	☐
専門分野の学力	☐
課題解決能力	☐
コミュニケーション力	☐
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

☐

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7865	ナンバリング	KB-HUM-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間科学				
担当教員（ローマ字表記）	本山 宏希				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

心理学への招待

授業の概要/Course Overview

この授業では、心理学とはどのような学問か、研究はどのように進められているかなどについて、認知心理学領域を中心に心理学全般を概観します。講義と簡単なデモンストレーションを通して、授業を進めていきます。心理学に関する基本的な知識を身につけること、科学的な視点から「心」を捉える意識を持つことを目指します。

キーワード/Keyword(s)

認知、記憶、学習、思考、言語、パーソナリティ、発達、認知工学

到達目標/Learning Objectives

心理学の基本的な用語を理解する。

日常的に体験される心理現象を心理学の用語、考え方をを用いて説明することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】

第1回 シラバスを用いたガイダンス

第2回 記憶：日常の記憶について

第3回 学習：新たな行動の獲得

第4回 思考：人間の思考の特性

第5回 思考：人間の主観的確率判断の特性

第6回 パーソナリティ：人の性格をどのように捉えるか

第7回 発達：乳幼児期の認知機能について

第8回 認知工学（45分）およびテスト（45分）

【授業外学習】

（1）講義資料、参考文献を参考に授業で扱った内容を復習することが望ましい。

（2）講義内容でとりあげた心理現象と対応する日常的な心理体験を結びつけること。また、そういった心理体験がどのようなメカニズムで生じているかを説明できるようにすること。

履修上の注意/Notes

授業中に小テストを実施する。また、8回目に最終試験を実施する。それらの総計によって評価は決定されます。

オフィスパワー：火曜日昼休み

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

A +	：心理学の基本的な知識と考え方を十分に修得し，さらにその仕組みについて説明できている。
A	：心理学の基本的な知識と考え方を修得し，さらにその仕組みについて説明できている。
B	：心理学の基本的な知識と考え方を概ね修得し，さらにその仕組みについて説明できている。
C	：心理学の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており，さらにその仕組みについて説明できている。
D	：心理学の基本的な知識と考え方が修得できておらず，さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

小テスト（40％）と第8回目後半に実施される最終テスト（60％）から評価を行います。
--

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	基礎心理学入門
著者名	田山忠行, 須藤昇 共編
出版社	培風館
出版年	2012
ISBN	9784563052201
教材費	2300

参考書2

書名	基礎から学ぶ心理学・臨床心理学
著者名	山祐嗣, 山口素子, 小林知博 編著
出版社	北大路書房
出版年	2009
ISBN	9784762826726
教材費	2500

参考書3

書名	グラフィック心理学
著者名	北尾倫彦 [ほか]共著
出版社	サイエンス社
出版年	1997
ISBN	9784781908250
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7866	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間科学				
担当教員（ローマ字表記）	宮崎 章夫				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

心理学への招待

授業の概要/Course Overview

心理学の基礎的な知識と考え方を学ぶ。毎回の授業に通底するテーマは日常生活の感情とストレスである。これららのテーマに関連する心理学の知識や理論を取り上げて解説する。さらに宿題を通して授業内容の理解を深める。学びを通して、少しでも自己や他者の感情・ストレスについて理解を深めることを目指してみたい。

キーワード/Keyword(s)

「心理学」「感情」「ストレス」「認知」「コミュニケーション」「幸福感」

到達目標/Learning Objectives

- ①心理学の基本的な知識と考え方を理解できる。

②感情・ストレスを生み出す心の仕組みについて文章で説明できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回　【授業内容】シラバスを用いたガイダンス【授業外学修】指定された資料を印刷し、次回の授業内容を通読しておく。

第2回　【授業内容】本授業で学ぶ心理学の基礎知識を身に付け、関連する問いに答える【授業外学修】クイズで示された要点を復習し、自分の言葉で説明できるようにする。

第3回　【授業内容】感情・ストレスを生み出す認知的な仕組みについて講義し、関連する問いに答える【授業外学修】クイズで示された要点を復習し、自分の言葉で説明できるようにする。

第4回　【授業内容】ストレスと認知1（原因帰属）の関連について講義し、関連する問いに答える　【授業外学修】宿題として指定されたワークシートを通して日々の経験を振り返り、省察を加える。

第5回　【授業内容】ストレスと認知2（自己効力感）の関連について講義し、関連する問いに答える【授業外学修】クイズで示された要点を復習し、自分の言葉で説明できるようにする。

第6回　【授業内容】対人ストレスと認知の関連性について講義し、関連する問いに答える【授業外学修】クイズで示された要点を復習し、自分の言葉で説明できるようにする。

第7回　【授業内容】幸福感と認知　【授業外学修】クイズで示された要点を復習し、自分の言葉で説明できるようにする。

第8回　【授業内容】授業の振り返り（45分）, 試験（45分）

第2回から第7回は毎回、授業内容の理解を深めるクイズを授業中に出します。

【アクティブ・ラーニング】第2回～第7回の授業では、問に対して自分の意見をまとめる作業を取り入れます。

履修上の注意/Notes

遅刻は原則として認めない。
授業の理解を深めるために宿題を1回出します。

情報端末の活用

授業中には情報端末を使用しないが、授業資料をポータルシステムにて配布するので印刷して授業に持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A +：感情・ストレスに関する心理学の基本的な知識と考え方を十分に修得し，さらにその仕組みについて説明できている。
- A：感情・ストレスに関する心理学の基本的な知識と考え方を修得し，さらにその仕組みについて説明できている。
- B：感情・ストレスに関する心理学の基本的な知識と考え方を概ね修得し，さらにその仕組みについて説明できている。
- C：感情・ストレスに関する心理学の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており，さらにその仕組みについて説明できている。
- D：感情・ストレスに関する心理学の基本的な知識と考え方が修得できておらず，さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

小テスト（1回、評価の観点点は到達目標の①②）70%、宿題（1回、評価の観点点は到達目標の①）30%

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は用いず、資料プリントをDream Campusで配布する。
----	-----------------------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	自分でできるストレス・マネジメント：活力を引き出す6つのレッスン
著者名	島津明人, 島津美由紀
出版社	培風館
出版年	2008
ISBN	9784563057183
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7867	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間科学				
担当教員（ローマ字表記）	青山 和夫				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

マヤ文明

授業の概要/Course Overview

前1000年頃から中米で盛衰したマヤ文明は、先スペイン期（16世紀以前）のアメリカ大陸において、文字、暦や天文学をもっとも発達させた「石器の都市文明」であった。講師自身の現地調査を含む最新の研究成果を紹介する。マヤ文明の実像に迫り、いわゆる「謎と神秘の文明」という誤ったイメージを一新する。

キーワード/Keyword(s)

マヤ文明、比較文明論、文化人類学、一次文明、世界六大文明、環境文明史、王権、石器、マヤ文字

到達目標/Learning Objectives

1. マヤ文明を学ぶことによって、文明とは何かを考察できる。

2. マヤ文明を理解する上で基本的な用語や概念を説明できる。

ディプロマ・ポリシー：①世界の俯瞰的理解、②専門分野の学力

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

(1) シラバスを用いたガイダンス、マヤ文明とは何か

(2) マヤ文字や暦について学ぶ

(3) ホンジュラスの現地調査から学ぶ

(4) 諸王、女王、貴族たちについて考える

(5) 農民の生活について学ぶ

(6) グアテマラの現地調査から学ぶ

(7) マヤ文明を学ぶ今日的意義について考える

(8) 最終テスト

【授業外学修】

毎回の講義のはじめに、教科書の予習の有無を確認する予習テストを実施するので、必ず予習するように。最終テストに出題する重要な用語や長文問題について毎回の講義で説明するので、よく復習するように。

【アクティブ・ラーニング】

毎回の講義のはじめに、教科書の予習の有無を確認する予習テストを実施する。毎回、授業で理解したことや疑問点をリアクションペーパーとして提出する。

履修上の注意/Notes

高校世界史Bの履修を前提としない。講義では、基礎的な事柄から丁寧に説明する。予習と復習をきちんとすれば、必ず良好な成績を確保できる授業である。

遅刻は原則として認めない。

オフィス・アワー：木曜日昼休み（事前に必ずメールで予約することkazuo.aoyama.1@vc.ibaraki.ac.jp）

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

- A＋：マヤ文明の基本的な知識と考え方を十分に修得し，さらにその仕組みについて説明できている。
- A：マヤ文明の基本的な知識と考え方を修得し，さらにその仕組みについて説明できている。
- B：マヤ文明の基本的な知識と考え方を概ね修得し，さらにその仕組みについて説明できている。
- C：マヤ文明の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており，さらにその仕組みについて説明できている。
- D：マヤ文明の基本的な知識と考え方が修得できておらず，さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

予習テストとリアクションペーパー（計50点、到達目標1に関連）、最終テスト（50点、到達目標1-2に関連）

教科書/Textbook(s)

教科書1	
書名	マヤ文明：密林に栄えた石器文化
著者名	青山和夫著
出版社	岩波書店
出版年	2012
ISBN	978-4004313649
教材費	

備考	教科書：青山和夫2012『マヤ文明 密林に栄えた石器文化』岩波新書 800円+税 参考書：青山和夫2015『マヤ文明を知る事典』東京堂出版 2800円+税
----	--

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	

地域活性化志向	
---------	--

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7868	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間科学				
担当教員（ローマ字表記）	数井 みゆき				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

男性の子育てを考えよう！

授業の概要/Course Overview

男性にとって養育とは何なのかを複数の観点から考えていく。オスが養育に関わる種は多くはないが、進化的な観点からヒトにとってはオスに関わるメリットがある。実際に子どもの育ちに本格的に関わる男性にはどのような特徴があるのか。社会経済的要因、心理的要因などや他の国の様子なども提示していく。男親が子どもにかかわることでの子どもへの影響についても考えていく。授業では映像資料を用いることで、より具体的な理解を進める。

キーワード/Keyword(s)

男性 養育 かかわり 夫婦 進化的背景 ライフワークバランス 子どもへの影響

到達目標/Learning Objectives

- ・「思い込み」から解放され、社会や人の多様性を理解でき,その中で生きていることを考察できる。
 - ・自分の意見を持ち発信できること・説明できること、自分とは違う考えを受け止めることができる。
 - ・みんな赤ん坊から出発しているという当たり前のことを理解していく。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：【授業内容】シラバスを用いたガイダンス--子育ての考え方についての時代的背景--
【授業外学修】当日配布のプリントと授業内容をもとに復習をする。
次週の予習として関連するテキスト部分を読んでおく。

第2回：【授業内容】日本の男性の現状（テキスト：第1、2章）
子育ては母親の仕事なのだろうか？という視点から映像を観る。リアクションペーパーを行う。
【授業外学修】当日配布のプリントと授業内容などをもとに復習をする。
次週の予習として関連する情報をネットなどで調べておく。

第3回：【授業内容】オスの子育ての進化的背景（プリント配布）
3，4人のグループでこの内容について話し合い（ディスカッション）を行う。
【授業外学修】当日配布のプリントと授業内容などをもとに復習をする。
次週の予習として関連する情報をネットなどで調べておく。

第4回：【授業内容】異なる文化における男性の養育
ビデオを観た考察を振り返りシートに記入する。
【授業外学修】当日配布のプリントと授業内容などをもとに復習をする。
次週の予習として関連する情報をネットやテキストなどで調べて、読んでおく。

第5回：【授業内容】ライフワークバランスとの関連（テキスト：第2章）

男性の育児休業取得や働き方の影響などに関するディスカッションを少人数グループで行う。

【授業外学修】当日配布のプリントと授業内容などをもとに復習をする。

次週の予習として関連するテキスト部分などを読んでおく。

第6回：【授業内容】夫婦関係の影響（テキスト：第3章、終章）

振り返りシートを使って、男性の子育てに対する夫婦関係の影響を考察する。

【授業外学修】当日配布のプリントと授業内容などをもとに復習をする。

次週の予習として関連する情報をネットやテキスト部分などで読んでおく。

第7回：【授業内容】男性がかかわることの子どもに対するメリット（テキスト：第3章）

3, 4人のグループでこの内容について話し合い（ディスカッション）を行う。

【授業外学修】当日配布のプリントと授業内容などをもとに復習をする。

次週の予習として関連する情報をネットやテキスト部分などで読んでおく。

第8回【授業内容】まとめ（45分） 子どもとのかかわりで成長する男性（テキスト：第3章、終章）

期末テスト（45分）

【授業外学修】本授業全体を改めて復習しておく。

履修上の注意/Notes

- ①ディスカッションには積極的に参加し、自分の意見を言うように努力すること。
- ②ディスカッションでも、振り返りシートの記入に際しても、この授業では明確な正解や不正解は無いので、とにかく自分の考えを発信するようにすること。
- ③何か理由があって授業を休んだ場合は個別に対応する。

情報端末の活用

- ・講義資料などの配布は、原則的に教務情報ポータルシステムを通して行うので、毎回の授業時にはPCを持参すること。
- ・7回目か8回目にアンケートを実施するため、PC、スマートフォンなどを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：男性の子育てに関する基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A：男性の子育てに関する基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B：男性の子育てに関する基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C：男性の子育てに関する基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D：男性の子育てに関する基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

- ・最後のテストが70%、振り返りシート（2回分、各15%）が30%で最終的な成績となる。
- ・テストは論述形式であり、問いに対しての解答において正確性、論理的整合性などを中心に評価を行う。
- ・振り返りシートは、問いに対して、自分の考えを明確に論述しているかで評価を行う。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	父親になる、父親をする：家族心理学の視点から
著者名	柏木 恵子 著
出版社	岩波書店
出版年	2011
ISBN	978-4002708119
教材費	626

備考	ただし、この教科書は変更の可能性あり。その場合は、初回授業で伝える。
----	------------------------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7869	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	メディア文化				
担当教員（ローマ字表記）	高野 光平				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

太平洋戦争とメディア

授業の概要/Course Overview

太平洋戦争における日本の宣伝政策を題材に、戦争とメディアとの関係について考える授業。新聞・雑誌・ラジオ・映画などのメディアが戦争とどのように関わったのかを、図像・映像資料と各種文字資料を組み合わせる追体験していく。

キーワード/Keyword(s)

戦争とメディア、メディア史、プロパガンダ、新聞、雑誌、ラジオ、映画

到達目標/Learning Objectives

- (1)メディア史という学問分野がどのようなものであるかを理解できる。
(2)メディアと社会との関係について歴史的視点から理解できる。
(3)歴史資料（とくに図像・映像資料）の特徴とその意義について理解できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】

01 講義の概要説明／戦争のメディア史
02 爆弾（肉弾）三勇士と忠犬ハチ公
03 国民精神総動員と「愛国行進曲」
04 紀元二千六百年
05 映画と戦争：太平洋戦争開始まで
06 映画と戦争：太平洋戦争開始から敗戦まで
07 紙の爆弾：伝単の情報世界
08 戦争末期のラジオ：謀略放送と玉音放送

【授業外学修】

授業で扱う視聴覚資料、および授業に関連する視聴覚資料にはYouTube等で閲覧できるものが多数あるので、事前・事後にそれらを閲覧することを適宜指示する。

【アクティブ・ラーニング】

毎回の授業終了時は、ミニツツペーパーによる理解度の確認を行う。

履修上の注意/Notes

- (1) ミニッツペーパーの未提出は欠席とみなす。正当な理由なき欠席が4回になった者には原則として単位を与えない。
- (2) 30分以上の遅刻入室は欠席扱いとする。
- (3) オフィス・アワーは毎週金曜日12～13時とするが、事前連絡があれば随時対応する。

情報端末の活用

事前・事後に教務情報ポータルシステムにアップした資料の通読やYouTubeでの閲覧を求めることがある。

課題レポートについては、教務情報ポータルシステムを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：	90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A：	80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B：	70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C：	60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D：	60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

期末レポート100%で評価する。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：特になし
----	----------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○ (ミニッツペーパー)

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB7870	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	思想・文学				
担当教員（ローマ字表記）	富澤 萌未				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

平安文学作品における子どもたち

授業の概要/Course Overview

平安時代の文学作品に登場する子どもが現れる場面を丁寧に読んでいく。
 そのための基礎知識、調査・研究方法についても学ぶ。

キーワード/Keyword(s)

日本古典文学・平安時代・物語・日記・子ども

到達目標/Learning Objectives

- ①日本古典文学に関する基礎知識を習得することができる。
 ②日本古典文学に親しみ自分なりに鑑賞することができる。
 ③日本古典文学に対する自分の考えを文章にまとめることができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：【授業内容】シラバスを用いたガイダンス、「子ども」とは
 第2回：【授業内容】和歌を詠む子ども（土佐日記）
 第3回：【授業内容】舞を舞う子ども①（古記録と蜻蛉日記）
 第4回：【授業内容】舞を舞う子ども②（うつほ物語）
 第5回：【授業内容】舞を舞う子ども③（源氏物語）
 第6回：【授業内容】遊ぶ子ども①（うつほ物語、源氏物語）
 第7回：【授業内容】遊ぶ子ども②（堤中納言物語）
 第8回：【授業内容】まとめ（これまで扱った場面をもとに調査したことや自分の考えを小レポートとしてまとめる）（45分）

【授業外学修】各回の授業外学修の方法
 予習：授業で扱う作品のあらすじを参考書などでつかんでおく。
 高等学校で習得した古典文法、古典単語、古文常識、古典文学史を復習しておく。
 復習：授業で配った資料を読み直し、調査して自分なりの考えをまとめておく（リアクションペーパーを次の授業で提出する）。授業で扱った作品は、授業では触れなかった場面も目を通しておく。

【アクティブ・ラーニング】
 2～8回の授業でリアクションペーパーの提出を求める。

履修上の注意/Notes

・ 3 分の 2 以上の出席を前提とする（遅刻・早退をした場合は 2 回で欠席とする）。

情報端末の活用

8 回目でアンケートを実施する予定のため、PC、スマートフォン等を持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：日本古典文学に関する基礎知識を十分に習得し、自分の考えを極めて高いレベルで文章にまとめることができる。
A：日本古典文学に関する基礎知識を習得し、調査したことや自分の考えを高いレベル以上で文章にまとめることができる。
B：日本古典文学に関する基礎知識を概ね習得し、調査したことや自分の考えを概ね文章にまとめることができる。
C：日本古典文学に関する基礎知識を最低限習得し、調査したことや自分の考えを最低限文章にまとめることができる。
D：日本古典文学に関する基礎知識を概ね習得しておらず、調査したことや自分の考えを文章にまとめることができない。

成績の評価方法/Grading

リアクションペーパー：50%（リアクションペーパーについては【授業及び授業外学修】参照） 小レポート：50%（授業で学んだ古典文学を読むための基礎知識、調査・研究方法が身についているか確認する）

教科書/Textbook(s)

備考	特になし。プリント配布。参考書については、各回の授業において提示する。
----	-------------------------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	千年の百冊 = 100 books for 1000 years : あらすじと現代語訳でよむ日本の古典100冊スーパーガイド
著者名	鈴木健一 編
出版社	小学館
出版年	2013
ISBN	9784093882767
教材費	2800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7871	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	思想・文学				
担当教員（ローマ字表記）	宮崎 尚子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

日本近代文学

授業の概要/Course Overview

日本の近代学を通して日本の伝統的な言語文化について学ぶ。近代化の実情を知り、その上で夏目漱石の作品を読む。芥川龍之介の作品を通して常識を疑う視点を養い、葉山嘉樹の作品を通してプロレタリア文学についての認識を深める。川端康成の作品ではモダニズム文学を理解し、北條民雄の作品ではハンセン氏病と国家の関係について、遠藤周作の作品では独特なキリスト教理解を通して日本の抱える問題についての理解を深め、世界を俯瞰する広い視野を育てる。
--

キーワード/Keyword(s)

近代、夏目漱石、芥川龍之介、葉山嘉樹、川端康成、北條民雄、遠藤周作

到達目標/Learning Objectives

・近現代文学の作家についてそれぞれの特質について説明できるようになる。 ・近現代文学の作家についてそれぞれの背景について説明できるようになる。 ・日本文学の特質について説明できるようになる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

（１） ガイダンス「近代とは」 ～富国強兵と西欧化～ （２） 夏目漱石の教員時代（「吾輩は猫である」「草枕」「三四郎」など） ～個人主義と近代～ （３） 芥川龍之介「桃太郎」 ～多角的な視点、常識への懐疑～ （４） 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」 ～プロレタリア文学とその周辺～ （５） 川端康成「伊豆の踊子」 ～モダニズム文学とその周辺～ （６） 北條民雄「いのちの初夜」 ～ハンセン氏病と国家～ （７） 遠藤周作「沈黙」 ～日本的なキリスト教理解～ （８） 総括 ～グループの総括（45分）／各自のミニレポート作成（45分）～ 【授業外学修】

- (1) 事前に取り扱う作品を読んで所感をまとめておく。
- (2) 作品の先行論文や歴史的背景について調べておく。
- (3) 総括で出た課題について調べておく。
- (4) 作品を通して何を伝えることができるか自分の考えをまとめておく。

【アクティブ・ラーニング手法】

・学生同士による話し合いと発表を行い、まとめを文章として提出する。

履修上の注意/Notes

- ①自分の考えをまとめる。
- ②遅刻 2 回は欠席 1 回とする。

情報端末の活用

なし

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 近代文学の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A : 近代文学の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B : 近代文学の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C : 近代文学の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D : 近代文学の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

- ①毎回の発言及び積極的参加姿勢（ミニレポート） 40パーセント
- ②総括時のレポート 60%
- ③8回目後半の期末試験は行わない。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：無し。（ただし以下の作品を読んでおくこと。） 参考書（作品）：夏目漱石「吾輩は猫である」「草枕」「三四郎」、芥川龍之介「桃太郎」、葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」、川端康成「伊豆の踊子」、北條民雄「いのちの初夜」、遠藤周作「沈黙」
----	--

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○

地域活性化志向	
---------	--

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	課題図書を読んでくること。
--------	--	-------	---------------

時間割コード	KB7872	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	LPS	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	歴史・考古学				
担当教員（ローマ字表記）	佐々木 啓				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

教養としての日本戦後史

授業の概要/Course Overview

「戦後」という言葉を聞いたとき、どのようなイメージが思い浮かぶだろうか。平和、民主化、経済成長……様々なことがあるだろう。あるいは、高校までにあまり時間をかけて「戦後史」を学習してこなかったため、イメージがわからないという人もいるかもしれない。本講義では、知っているようで知らない、あるいは、身近でないようで身近な、日本の「戦後史」について、様々な事柄に光をあて、考察する。

キーワード/Keyword(s)

総力戦 戦後日本 占領 平和 民主化 55年体制 高度経済成長 企業社会 象徴天皇制 新自由主義

到達目標/Learning Objectives

- 1) 日本の戦後史について、基本的な流れを理解する。
- 2) 日本の戦後史について、多角的視点で説明できるようになる。
- 3) 現在の日本の諸問題について、歴史的な視点から考察できるようになる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンス／「戦後」とはなにか？

第2回：日本国憲法の制定と定着

第3回：日米安保体制の形成

第4回：高度経済成長とは何だったのか

第5回：企業社会の時代

第6回：新自由主義の時代

第7回：在日コリアンの「戦後」

第8回：全体のまとめ（45分）と試験（45分）

【授業外学修】

- （1）次回学習する時代や内容については、事前に通告するので、参考文献などで予習し、分からない用語などは、あらかじめ調べておくこと。
- （2）高等学校で日本史を履修していない場合は、中村政則『戦後史』を一通り読んでおくことが望ましい。

【アクティブ・ラーニング】

- （1）毎回の授業終了時は、コメント用紙に意見や感想、質問を記入する時間を取り、理解度の確認を行う。
- （2）毎回の授業開始時には、コメント用紙のいくつかを紹介し、質問に答える。

履修上の注意/Notes

私語・遅刻厳禁。レジュメを毎回A 3 で 2 枚程度配布するので、保存用のファイル等を準備しておくとい。オフィスアワーは火曜日の昼休み。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標の 3 点について極めて高いレベルで達成されている。
- A：到達目標の 3 点について高いレベル以上で達成されている。
- B：到達目標の 3 点についておおむね以上のレベルで達成されている。
- C：到達目標の 3 点について最低限のレベル以上において達成されている。
- D：到達目標の 3 点のうち 1 点以上について全く達成されていない

成績の評価方法/Grading

コメントシートの内容（2 0％）、テストの点数（8 0％）。
いずれも到達目標 1）～3）を、評価の主要な観点とする。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	もういちど読む山川日本戦後史
著者名	老川慶喜著
出版社	山川出版社
出版年	2016
ISBN	4634591138
教材費	

参考書2

書名	戦後日本史：時代をラディカルにとらえる
著者名	山田敬男著
出版社	学習の友社
出版年	2009
ISBN	4761706546
教材費	

参考書3

書名	戦後史
著者名	中村政則著

出版社	岩波書店
出版年	2005
ISBN	4004309557
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	△
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

・高等学校における教諭経験がある教員が、その経験を活かして、歴史の論じ方、他者との共有の方法に関連した講義を行う。

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB7874	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	LPS	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間科学				
担当教員（ローマ字表記）	石井 宏典				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

心理学への招待

授業の概要/Course Overview

人間理解を目指す心理学の導入講義です。人はみな、それぞれに個性豊かな「わたし」を生きています。では、この「わたし」はどのようにして育まれてきたのでしょうか。「わたし」が形成される過程に焦点をあて、その過程において身近な相手や周囲の環境がどのように影響を及ぼしているのかについて考えます。それは、わたしたちがいかに社会によって方向づけられているのかを自覚する作業でもあります。なお、これまで心理学が築いてきた人間を理解するための方法論についてもふれます。

キーワード/Keyword(s)

心理学、人格（パーソナリティ）、関係、社会、状況の力、社会化

到達目標/Learning Objectives

- 1) 人格（パーソナリティ）が周囲との関係のなかで形成されるという視点を理解できる。

2) 人間心理と社会との相互関係について考察する姿勢を身につける。

3) 心理学の認識スタイルの特色について理解できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1) シラバスを用いたガイダンス、人間理解と心理学

2) 「わたし」へのまなざし

3) 個人の内発的な力／状況の力

4) 「わたし」が形成される過程：モデリングと鏡に映った自己

5) 人格（パーソナリティ）の理論・とらえ方

6) 心理学の認識論：「心」を測定する、関係のなかの「心」

7) 社会による方向づけ（社会化）と人格形成

8) まとめ：人格と社会の相互関係（45分）、試験（45分）

【授業外学修】

1) 授業後に授業ノートおよび配付資料をもう一度精読する。適宜、関連の辞典などにあたる。

2) 授業内容を咀嚼しながら自分が考えたことを整理し、書き出しておく。

3) 第3回、6回の授業後には、小レポート課題に取り組む。

【アクティブ・ラーニング】

1) 第1回、6回には、課題の実施とともに、小集団でのディスカッションを行う。

2) 第4回、7回には、小レポートの内容をふまえ、小集団での発表、ディスカッションを行う。

履修上の注意/Notes

①毎回授業の内容を復習し、指示された課題をかならず提出すること。②15分以上の遅刻は欠席扱いとなるので注意すること。③小レポートは、授業のなかでいくつか紹介する。

情報端末の活用

7回目または8回目でアンケートを実施する予定のため、P C、スマートフォン等を持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A + : 授業で扱った知見と考え方を深く理解し、それらをふまえて、人間心理と現代社会についての考察を発展させることができる。
A : 授業で扱った知見と考え方を理解し、それらをふまえて、人間心理と現代社会について考察できる。
B : 授業で扱った知見と考え方を概ね理解し、それらをふまえて、人間心理と現代社会について考察できる。
C : 授業で扱った知見と考え方についてある程度理解し、それらをふまえて、人間心理と現代社会について考察できる。
D : 授業で扱った知見と考え方が理解できておらず、それらをふまえた人間心理と現代社会についての考察が困難である。

成績の評価方法/Grading

授業への取り組み（小レポート提出を中心とする）と最終試験の内容（4 : 6）をもとに評価する。

教科書/Textbook(s)

備考	指定なし。配付資料を用いる。
----	----------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	いんとろだくしょん社会心理学
著者名	細江達郎ほか
出版社	新曜社
出版年	1990
ISBN	4788503689
教材費	2200

参考書2

書名	心理学研究法入門
著者名	南風原朝和ほか
出版社	東京大学出版会
出版年	2001
ISBN	4130120352
教材費	2800

参考書3

書名	「私」とは何か
著者名	浜田寿美男
出版社	講談社

出版年	1999
ISBN	4062581701
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	○
課題解決能力	
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7875	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間科学				
担当教員（ローマ字表記）	宮崎 章夫				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

心理学への招待

授業の概要/Course Overview

心理学の基礎的な知識と考え方を学ぶ。毎回の授業に通底するテーマは日常生活の感情とストレスである。これららのテーマに関連する心理学の知識や理論を取り上げて解説する。さらに宿題を通して授業内容の理解を深める。学びを通して、少しでも自己や他者の感情・ストレスについて理解を深めることを目指してみたい。

キーワード/Keyword(s)

「心理学」「感情」「ストレス」「認知」「コミュニケーション」「幸福感」

到達目標/Learning Objectives

- ①心理学の基本的な知識と考え方を理解できる。

②感情・ストレスを生み出す心の仕組みについて文章で説明できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回　【授業内容】シラバスを用いたガイダンス【授業外学修】指定された資料を印刷し、次回の授業内容を通読しておく。

第2回　【授業内容】本授業で学ぶ心理学の基礎知識を身に付け、関連する問いに答える【授業外学修】クイズで示された要点を復習し、自分の言葉で説明できるようにする。

第3回　【授業内容】感情・ストレスを生み出す認知的な仕組みについて講義し、関連する問いに答える【授業外学修】クイズで示された要点を復習し、自分の言葉で説明できるようにする。

第4回　【授業内容】ストレスと認知1（原因帰属）の関連について講義し、関連する問いに答える　【授業外学修】宿題として指定されたワークシートを通して日々の経験を振り返り、省察を加える。

第5回　【授業内容】ストレスと認知2（自己効力感）の関連について講義し、関連する問いに答える【授業外学修】クイズで示された要点を復習し、自分の言葉で説明できるようにする。

第6回　【授業内容】対人ストレスと認知の関連性について講義し、関連する問いに答える【授業外学修】クイズで示された要点を復習し、自分の言葉で説明できるようにする。

第7回　【授業内容】幸福感と認知　【授業外学修】クイズで示された要点を復習し、自分の言葉で説明できるようにする。

第8回　【授業内容】授業の振り返り（45分）, 試験（45分）

第2回から第7回は毎回、授業内容の理解を深めるクイズを授業中に出します。

第7回は宿題の回答内容を踏まえた授業を行います。

履修上の注意/Notes

遅刻は原則として認めない。

授業の理解を深めるために宿題を1回出します。

情報端末の活用

授業中には情報端末を使用しないが、授業資料をポータルシステムにて配布するので印刷して授業に持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A +：感情・ストレスに関する心理学の基本的な知識と考え方を十分に修得し，さらにその仕組みについて説明できている。
- A：感情・ストレスに関する心理学の基本的な知識と考え方を修得し，さらにその仕組みについて説明できている。
- B：感情・ストレスに関する心理学の基本的な知識と考え方を概ね修得し，さらにその仕組みについて説明できている。
- C：感情・ストレスに関する心理学の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており，さらにその仕組みについて説明できている。
- D：感情・ストレスに関する心理学の基本的な知識と考え方が修得できておらず，さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

小テスト（1回、評価の観点には到達目標の①②）70%、宿題（1回、評価の観点には到達目標の①）30%

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は用いず、資料プリントをDream Campusで配布する。
----	-----------------------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	自分でできるストレス・マネジメント：活力を引き出す6つのレッスン
著者名	島津明人, 島津美由紀
出版社	培風館
出版年	2008
ISBN	9784563057183
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7876	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間科学				
担当教員（ローマ字表記）	青山 和夫				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

マヤ文明

授業の概要/Course Overview

前1000年頃から中米で盛衰したマヤ文明は、先スペイン期（16世紀以前）のアメリカ大陸において、文字、暦や天文学をもっとも発達させた「石器の都市文明」であった。講師自身の現地調査を含む最新の研究成果を紹介する。マヤ文明の実像に迫り、いわゆる「謎と神秘の文明」という誤ったイメージを一新する。
--

キーワード/Keyword(s)

マヤ文明、比較文明論、文化人類学、一次文明、世界六大文明、環境文明史、王権、石器、マヤ文字

到達目標/Learning Objectives

1. マヤ文明を学ぶことによって、文明とは何かを考察できる。 2. マヤ文明を理解する上で基本的な用語や概念を説明できる。 ディプロマ・ポリシー：①世界の俯瞰的理解、②専門分野の学力
--

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

(1) シラバスを用いたガイダンス、マヤ文明とは何か (2) マヤ文字や暦について学ぶ (3) ホンジュラスの現地調査から学ぶ (4) 諸王、女王、貴族たちについて考える (5) 農民の生活について学ぶ (6) グアテマラの現地調査から学ぶ (7) マヤ文明を学ぶ今日的意義について考える (8) 最終テスト
【授業外学修】 毎回の講義のはじめに、教科書の予習の有無を確認する予習テストを実施するので、必ず予習するように。最終テストに出題する重要な用語や長文問題について毎回の講義で説明するので、よく復習するように。 【アクティブ・ラーニング】 毎回の講義のはじめに、教科書の予習の有無を確認する予習テストを実施する。毎回、授業で理解したことや疑問点をリアクションペーパーとして提出する。

履修上の注意/Notes

高校世界史Bの履修を前提としない。講義では、基礎的な事柄から丁寧に説明する。予習と復習をきちんとすれば、必ず良好な成績を確保できる授業である。

遅刻は原則として認めない。

オフィス・アワー：木曜日昼休み（事前に必ずメールで予約することkazuo.aoyama.1@vc.ibaraki.ac.jp）

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

- A +：マヤ文明の基本的な知識と考え方を十分に修得し，さらにその仕組みについて説明できている。
- A：マヤ文明の基本的な知識と考え方を修得し，さらにその仕組みについて説明できている。
- B：マヤ文明の基本的な知識と考え方を概ね修得し，さらにその仕組みについて説明できている。
- C：マヤ文明の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており，さらにその仕組みについて説明できている。
- D：マヤ文明の基本的な知識と考え方が修得できておらず，さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

予習テストとリアクションペーパー（計50点、到達目標1に関連）、最終テスト（50点、到達目標1-2に関連）

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：青山和夫2012『マヤ文明 密林に栄えた石器文化』岩波新書 800円+税 参考書：青山和夫2015『マヤ文明を知る事典』東京堂出版 2800円+税
----	--

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	マヤ文明：密林に栄えた石器文化
著者名	青山和夫著
出版社	岩波書店
出版年	2012
ISBN	978-4004313649
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	

地域活性化志向	
---------	--

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7877	ナンバリング	KB-HUM-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間科学				
担当教員（ローマ字表記）	本山 宏希				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

心理学への招待

授業の概要/Course Overview

この授業では、心理学とはどのような学問か、研究はどのように進められているかなどについて、認知心理学領域を中心に心理学全般を概観します。講義と簡単なデモンストレーションを通して、授業を進めていきます。心理学に関する基本的な知識を身につけること、科学的な視点から「心」を捉える意識を持つことを目指します。

キーワード/Keyword(s)

認知、記憶、学習、思考、言語、パーソナリティ、発達、認知工学

到達目標/Learning Objectives

心理学の基本的な用語を理解する。

日常的に体験される心理現象を心理学の用語、考え方をを用いて説明することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】

第1回 シラバスを用いたガイダンス

第2回 記憶：日常の記憶について

第3回 学習：新たな行動の獲得

第4回 思考：人間の思考の特性

第5回 思考：人間の主観的確率判断の特性

第6回 パーソナリティ：人の性格をどのように捉えるか

第7回 発達：乳幼児期の認知機能について

第8回 認知工学（45分）およびテスト（45分）

【授業外学習】

（1）講義資料、参考文献を参考に授業で扱った内容を復習することが望ましい。

（2）講義内容でとりあげた心理現象と対応する日常的な心理体験を結びつけること。また、そういった心理体験がどのようなメカニズムで生じているかを説明できるようにすること。

履修上の注意/Notes

授業中に小テストを実施する。また、8回目に最終試験を実施する。それらの総計によって評価は決定されます。

オフィスパワー：火曜日昼休み

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

A +	：心理学の基本的な知識と考え方を十分に修得し，さらにその仕組みについて説明できている。
A	：心理学の基本的な知識と考え方を修得し，さらにその仕組みについて説明できている。
B	：心理学の基本的な知識と考え方を概ね修得し，さらにその仕組みについて説明できている。
C	：心理学の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており，さらにその仕組みについて説明できている。
D	：心理学の基本的な知識と考え方が修得できておらず，さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

小テスト（40％）と第8回目後半に実施される最終テスト（60％）から評価を行います。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	基礎心理学入門
著者名	田山忠行, 須藤昇 共編
出版社	培風館
出版年	2012
ISBN	9784563052201
教材費	2300

参考書2

書名	基礎から学ぶ心理学・臨床心理学
著者名	山祐嗣, 山口素子, 小林知博 編著
出版社	北大路書房
出版年	2009
ISBN	9784762826726
教材費	2500

参考書3

書名	グラフィック心理学
著者名	北尾倫彦 [ほか]共著
出版社	サイエンス社
出版年	1997
ISBN	9784781908250
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7878	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	LPS	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間科学				
担当教員（ローマ字表記）	松本 光太郎				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

環境心理学入門

授業の概要/Course Overview

この授業では、身の周りにある環境に関する講義と課題を通して、私たちの心に関する理解が広がる・深まることを目指します。

キーワード/Keyword(s)

心理、環境

到達目標/Learning Objectives

- ・心理学の知見を理解できる
 - ・課題に積極的に取り組むことができる
 - ・私たちの身の周りおよび人の心について理解が深まる
 - ・地域の具体的な課題に関する理解が進む

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1 シラバスを使ったガイダンス
 - 2 講義1：取り囲まれていること
 - 3 講義2：動く・出会う
 - 4 講義3：知覚と行為
 - 5 課題1：具体的課題は授業で告知
 - 6 課題1の検討
 - 7 課題2：具体的課題は授業で告知
 - 8 課題2の検討
- 【授業外学習】

 - ・課題に取り組む際に、授業の内容を理解しておくことが必要であるため、復習をしておくこと。
- 【アクティブ・ラーニング】

 - ・講義で学んだことを課題を通して、理解を深め、さらに学びを広げていく。
 - ・授業終了時には、小レポートを通して理解度の確認を行う。

履修上の注意/Notes

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

A + : 環境心理学の基本的な知識と考え方を十分に修得し、課題が特に秀でている。
A : 環境心理学の基本的な知識と考え方を修得し、課題が秀でている。
B : 環境心理学の基本的な知識と考え方を概ね修得し、標準的な課題を提出している。
C : 環境心理学の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、最低限の課題を提出している。
D : 環境心理学の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらに課題が評価できない。

成績の評価方法/Grading

課題が80%、授業時の小レポートが20%。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	生態学的視覚論
著者名	ギブソン
出版社	誠信書房
出版年	1985
ISBN	
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7879	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間科学				
担当教員（ローマ字表記）	数井 みゆき				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

男性の子育てを考えよう！

授業の概要/Course Overview

男性にとって養育とは何なのかを複数の観点から考えていく。オスが養育に関わる種は多くはないが、進化的な観点からヒトにとってはオスが関わるメリットがある。実際に子どもの育ちに本格的に関わる男性にはどのような特徴があるのか。社会経済的要因、心理的要因などや他の国の様子なども提示していく。男親が子どもにかかわることでの子どもへの影響についても考えていく。授業では映像資料を用いることで、より具体的な理解を進める。

キーワード/Keyword(s)

男性 養育 かかわり 夫婦 進化的背景 ライフワークバランス 子どもへの影響

到達目標/Learning Objectives

- ・「思い込み」から解放され、社会や人の多様性を理解でき,その中で生きていることを考察できる。
 - ・自分の意見を持ち発信できること・説明できること、自分とは違う考えを受け止めることができる。
 - ・みんな赤ん坊から出発しているという当たり前のことを理解していく。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：【授業内容】シラバスを用いたガイダンス--子育ての考え方についての時代的背景--
【授業外学修】当日配布のプリントと授業内容をもとに復習をする。
次週の予習として関連するテキスト部分を読んでおく。

第2回：【授業内容】日本の男性の現状（テキスト：第1、2章）
子育ては母親の仕事なのだろうか？という視点から映像を観る。リアクションペーパーを行う。
【授業外学修】当日配布のプリントと授業内容などをもとに復習をする。
次週の予習として関連する情報をネットなどで調べておく。

第3回：【授業内容】オスの子育ての進化的背景（プリント配布）
3，4人のグループでこの内容について話し合い（ディスカッション）を行う。
【授業外学修】当日配布のプリントと授業内容などをもとに復習をする。
次週の予習として関連する情報をネットなどで調べておく。

第4回：【授業内容】異なる文化における男性の養育
ビデオを観た考察を振り返りシートに記入する。
【授業外学修】当日配布のプリントと授業内容などをもとに復習をする。
次週の予習として関連する情報をネットやテキストなどで調べて、読んでおく。

第5回：【授業内容】ライフワークバランスとの関連（テキスト：第2章）

男性の育児休業取得や働き方の影響などに関するディスカッションを少人数グループで行う。

【授業外学修】当日配布のプリントと授業内容などをもとに復習をする。

次週の予習として関連するテキスト部分などを読んでおく。

第6回：【授業内容】夫婦関係の影響（テキスト：第3章、終章）

振り返りシートを使って、男性の子育てに対する夫婦関係の影響を考察する。

【授業外学修】当日配布のプリントと授業内容などをもとに復習をする。

次週の予習として関連する情報をネットやテキスト部分などで読んでおく。

第7回：【授業内容】男性がかかわることの子どもに対するメリット（テキスト：第3章）

3, 4人のグループでこの内容について話し合い（ディスカッション）を行う。

【授業外学修】当日配布のプリントと授業内容などをもとに復習をする。

次週の予習として関連する情報をネットやテキスト部分などで読んでおく。

第8回【授業内容】まとめ（45分） 子どもとのかかわりで成長する男性（テキスト：第3章、終章）

期末テスト（45分）

【授業外学修】本授業全体を改めて復習しておく。

履修上の注意/Notes

- ①ディスカッションには積極的に参加し、自分の意見を言うように努力すること。
- ②ディスカッションでも、振り返りシートの記入に際しても、この授業では明確な正解や不正解は無いので、とにかく自分の考えを発信するようにすること。
- ③何か理由があって授業を休んだ場合は個別に対応する。

情報端末の活用

- ・講義資料などの配布は、原則的に教務情報ポータルシステムを通して行うので、毎回の授業時にはPCを持参すること。
- ・7回目か8回目にアンケートを実施するため、PC、スマートフォンなどを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：男性の子育てに関する基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A：男性の子育てに関する基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B：男性の子育てに関する基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C：男性の子育てに関する基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D：男性の子育てに関する基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

- ・最後のテストが70%、振り返りシート（2回分、各15%）が30%で最終的な成績となる。
- ・テストは論述形式であり、問いに対しての解答において正確性、論理的整合性などを中心に評価を行う。
- ・振り返りシートは、問いに対して、自分の考えを明確に論述しているかで評価を行う。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	父親になる、父親をする：家族心理学の視点から
著者名	柏木 恵子 著
出版社	岩波書店
出版年	2011
ISBN	978-4002708119
教材費	626

備考	ただし、この教科書は変更の可能性あり。その場合は、初回授業で伝える。
----	------------------------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7880	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	LPS	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	メディア文化				
担当教員（ローマ字表記）	村上 信夫				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

メディアと社会

授業の概要/Course Overview

我々が「事実」と思っていることの殆どは、経験したことなくメディアを通じて知り、その中から自分が選択したものに過ぎない。メディア技術の変化は我々の感性を大きく変え、デジタル化により加速している。こうしたメディアと社会、文化に関する知識を様々な角度から学ぶ。

キーワード/Keyword(s)

マスメディア メディア史 新聞 映画 ラジオ テレビ 広報 広告 PR メディアイベント 政治とメディア ポピュラー・カルチャー メディアリテラシー SNS インスタグラム LINE ツイッター

到達目標/Learning Objectives

1 メディアと社会、文化についてその基礎を学ぶ。 2 メディアの歴史を理解し、その影響と変化を学ぶ。 3．発表などを通して、各自の表現力、コミュニケーション力の向上を目指す
--

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1 ガイダンス 講義「メディアとは何か」 シラバスを用いて授業内容・課題の提出・出欠の取り方・成績についての説明と感想文提出 グループワークに関する説明 / 講義 2 メディア史① （概要 メディアテクノロジーと感性の変化） ※研究グループ決定と課題「2週間のメディア接触日誌」説明 3 メディア史② 印刷文化② 黙読と思索の始まり ナショナリズム 4 メディア文化と「アウラ」 5 課題「2週間のメディア接触日誌」発表 6 政治とメディア ラジオとファシズム 7 パーソナルメディアとコミュニケーションの変化 8 テスト 【進め方】 ① シラバスは目安であり、受講生の人数、希望、理解度などを見て、適時入れ替えるので、あらかじめ承知しておくこと。 ② 授業では資料を配布しないので、授業に集中してほしい。 ③ 授業は学生の能動的参加が中心となる。 【授業外学修】
--

- テキスト「メディア文化論」の該当ページを事前に読んでおくこと。
- 事後は、授業内容を確認し、自分のものとする。
- 授業で学んだ知識や視点、考え方を踏まえて、テレビ、新聞、雑誌、ラジオ（※あえてWEB情報は外す）などのマスメディアに1日30分以上、毎日、接すること。疑問があれば、質問し、知識・考え方を確実にする
- 【アクティブラーニング手法】
- ・教員が学生に対して問いかけをし、学生に考えさせる（「ソクラテス問答」）
- ・ディスカッション
- ・グループで調査・研究を行い発表する「グループワーク」を行う。
- ・履修者は、毎回、授業の最後にコメントを書いたミニツツペーパーを提出。

履修上の注意/Notes

- 教員は全力で準備し、各回が繋がり全体を理解できるよう組んでいるので、
- ①欠席は認めない。事前に相談のある時に限り公欠とする。が、8回中【3回】以上の欠席は理由の如何を問わず単位を発行しない。
- ②事前に連絡がなく、正当な理由のない10分以上の遅刻は欠席扱いとする。
- ③授業中の“内職行為”は、見つけ次第退席、単位を与えない

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。
- A：到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている。
- B：到達目標の3点についておおむね以上のレベルで達成されている。
- C：到達目標の3点について最低限のレベル以上において達成されている。
- D：到達目標の3点のうち1点以上について全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

学習態度（毎回のミニツツペーパーなど）：25点／レポート：25点／期末試験：50点

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	「メディア文化論 改訂版
著者名	吉見俊哉著
出版社	有斐閣
出版年	2015
ISBN	
教材費	1944

備考	参考書：宮本徹著「ことばとメディア」（放送大学教材 NHK出版）2,600円 有山輝雄著「メディア史を学ぶ人のために」（世界思想社）1,233円
----	---

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

○

地域志向科目

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

現役の放送作家でもある教員が、その経験を活かして、メディアの現状、課題、未来について現場の動きも含め説明する。

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7881	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	メディア文化				
担当教員（ローマ字表記）	高野 光平				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

太平洋戦争とメディア

授業の概要/Course Overview

太平洋戦争における日本の宣伝政策を題材に、戦争とメディアとの関係について考える授業。新聞・雑誌・ラジオ・映画などのメディアが戦争とどのように関わったのかを、図像・映像資料と各種文字資料を組み合わせる追体験していく。

キーワード/Keyword(s)

戦争とメディア、メディア史、プロパガンダ、新聞、雑誌、ラジオ、映画

到達目標/Learning Objectives

(1)メディア史という学問分野がどのようなものであるかを理解できる。
 (2)メディアと社会との関係について歴史的視点から理解できる。
 (3)歴史資料（とくに図像・映像資料）の特徴とその意義について理解できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】

01 講義の概要説明／戦争のメディア史
 02 爆弾（肉弾）三勇士と忠犬ハチ公
 03 国民精神総動員と「愛国行進曲」
 04 紀元二千六百年
 05 映画と戦争：太平洋戦争開始まで
 06 映画と戦争：太平洋戦争開始から敗戦まで
 07 紙の爆弾：伝単の情報世界
 08 戦争末期のラジオ：謀略放送と玉音放送

【授業外学修】

授業で扱う視聴覚資料、および授業に関連する視聴覚資料にはYouTube等で閲覧できるものが多数あるので、事前・事後にそれらを閲覧することを適宜指示する。

【アクティブ・ラーニング】

毎回の授業終了時は、ミニツツペーパーによる理解度の確認を行う。

履修上の注意/Notes

- (1) ミニッツペーパーの未提出は欠席とみなす。正当な理由なき欠席が4回になった者には原則として単位を与えない。
- (2) 30分以上の遅刻入室は欠席扱いとする。
- (3) オフィス・アワーは毎週金曜日12～13時とするが、事前連絡があれば随時対応する。

情報端末の活用

事前・事後に教務情報ポータルシステムにアップした資料の通読やYouTubeでの閲覧を求めることがある。

課題レポートについては、教務情報ポータルシステムを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：	90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A：	80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B：	70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C：	60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D：	60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

期末レポート100%で評価する。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：特になし
----	----------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○ (ミニッツペーパー)

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB7882	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	歴史・考古学				
担当教員（ローマ字表記）	添田 仁				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

外国人が見た江戸時代

授業の概要/Course Overview

江戸時代に生きた人びとは、西洋文化と出会い、近代化（西洋化）の途をたどるなかで、何を失い、何を得たのか。江戸時代の日本を見た外国人の目を通して、当時の日本社会とその文化の様相を復元するとともに、近代化の過程における日本人の異文化理解の変遷とその特質について、歴史的な観点から論じる。

キーワード/Keyword(s)

日本史 江戸時代 風俗 異文化理解 史料批判 客観性 相対化

到達目標/Learning Objectives

1）中学・高校で学んできた「日本史」と大学で学ぶ「歴史学」の違いを理解できる。 2）過去に書かれた記録から、その時代の人びとの発想や情景を読み取ることができる。 3）日本の歴史や文化の特質を、世界的かつ客観的な視点から理解することができる

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1）導入 シラバスを用いたガイダンス／「日本史」と「歴史学」の違い 2）失われた日本の風景 3）日本人の容姿 4）礼儀正しくて下品 5）裸体と性－ヤマトナデシコの性事情－ 6）開かれた売買春 7）勤勉となまけ者 8）まとめ－異文化を理解するということ－
毎回授業終了時に（ふり返り）のため、理解したことや不明な点について「リアクションペーパー」を提出する。次回授業の冒頭で、その一部を紹介して、授業内容の理解を深め、共有する。 【授業外学修】 （1）高校の歴史教科書を持っている者は、明治維新期の部分にあらかじめ目を通しておくとよい。 （2）講義資料は授業の中で配布するので、授業前に読んで、分からない用語などはあらかじめ調べておくことが望ましい。

履修上の注意/Notes

プリントを配布し、その内容を説明しながら授業を行う。また、毎回授業の最後に「リアクションペーパー」（授業に対する感想や意見）を提出してもらい、その内容を次回の授業でも紹介して、課題や関心を受講者の間で共有しながら進める。なお、遅刻は認めない。オフィスアワーは木曜日の昼休み。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

- A＋：異文化認識についての基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A：異文化認識についての基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B：異文化認識についての基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C：異文化認識についての基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D：異文化認識についての基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験は行わない。毎回提出してもらう「リアクションペーパー」の内容（評価比率24％）と、授業中に行う「小テスト」（1回予定）の合計点（評価比率76％）で評価する。「リアクションペーパー」・「小テスト」ともに、到達目標1）～3）の理解度を評価の主要な観点とする。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	逝きし世の面影
著者名	渡辺京二
出版社	平凡社
出版年	2005
ISBN	978-4582765526
教材費	1900

参考書2

書名	欧米人の見た開国期日本
著者名	石川榮吉
出版社	風響社
出版年	2008
ISBN	978-4894891210
教材費	2500

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
----------	---

専門分野の学力	◎
課題解決能力	△
コミュニケーション力	△
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7883	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	歴史・考古学				
担当教員（ローマ字表記）	新谷 崇				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

イタリア半島の歴史と文化

授業の概要/Course Overview

地中海の中央に位置するイタリア半島は西洋文明の形成において重要な役目を果たした。そのため、長い歴史を有するこの地の文化や思想は、グローバルに通じる基礎教養という側面を持つ。本授業は、こうしたイタリア半島の歴史を食と文化に着目しながら検討することで、履修者の世界理解をより多様なものにするだけでなく、われわれが生きる社会を相対化する視点を養うことを目的としている。

キーワード/Keyword(s)

イタリア、歴史、文化、食、スローフード運動

到達目標/Learning Objectives

1. イタリア半島の歴史的な流れと文化を理解する。
 2. 基本的知識を習得し、時代ごとの主要動向と背景を理解し、それらを大学生としてふさわしい表現を用いて説明できるようになる。
 3. 異なる時代、地域、社会、文化の特質を考えることで、我々が生きる現代日本を相対化する視点を養う。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンス

第2回：イタリアという国の外観

第3回：ナショナル・アイデンティティと食文化

第4回：ファシズムの食卓

第5回：パスタの歴史

第6回：ピザと移民

第7回：コーヒーから見るグローバルヒストリー

第8回：スローフード運動

【授業外学修】

- (1) 原則として事前に授業資料に必ず目を通しておくこと。
- (2) 各回の授業で紹介された参考図書にも積極的に目を通し、復習に努めること。
- (3) 指示された内容だけでなく、自らの知識の度合いや関心に応じて、教科書として指定している書籍等を用いて関連事項を調べ、主体的に知識及び視野を広げること。また、高校世界史の知識が十分ではない履修者は、高校教科書等も利用、持参して、基礎知識の確認をしながら授業に臨むこと。
- (4) レポートの作成を目指して、各回の授業では手順などを指示するので、課題に取り組み、その成果を定期的に提出すること。
- (5) レポート作成にあたっては、授業全体の内容をよく振り返り、資料を集め、授業内で説明する執筆要項に従い、

論理を組み立てること。その際、資料の収集や理解において困難がある場合は、積極的に助言を求めること。

【アクティブ・ラーニング】

第2回から第8回までの各回冒頭では、前回授業で提出されたレスポンスシートの内容を振り返り、前回までの受講者の理解度・到達点を確認してから新たな内容に入る。

履修上の注意/Notes

- ・前提知識は求めないが、高校「世界史」ならびに「地理」の教科書、資料集を事前に再読するのが望ましい
- ・授業中に参考図書を紹介するので、積極的に手に取ること。
- ・自身の成績に関わるだけでなく他の履修者の迷惑にもなるので遅刻はしないこと。
- ・授業に関する通知は、教務ポータルシステムを通じて送るので、定期的に確認すること。

情報端末の活用

特になし。ただし、課題レポートは教務ポータルシステムを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：イタリア半島の歴史と文化に関わる基本的な知識を十分に修得し、学術的な表現で論理的に説明できている。
- A：イタリア半島の歴史と文化に関わる基本的な知識を修得し、学術的な表現で論理的に説明できている。
- B：イタリア半島の歴史と文化に関わる基本的な知識を概ね修得し、学術的な表現で論理的に説明できている。
- C：イタリア半島の歴史と文化に関わる基本的な知識について最低限の修得をしており、学術的な表現で論理的に説明できている。
- D：イタリア半島の歴史と文化に関わる基本的な知識が修得できておらず、適切な説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

レポート：70％／各回授業におけるレスポンスシートの内容：30％

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	イタリア史
著者名	北原敦編
出版社	山川出版社
出版年	2008
ISBN	9784634414501
教材費	

参考書2

書名	はじめて学ぶイタリアの歴史と文化
著者名	藤内哲也編
出版社	ミネルヴァ書房

出版年	2016
ISBN	9784623072675
教材費	

参考書3

書名	教養のイタリア近現代史
著者名	土肥秀行, 山手昌樹編
出版社	ミネルヴァ書房
出版年	2017
ISBN	9784623080212
教材費	

参考書4

書名	近代イタリアの歴史：16世紀から現代まで
著者名	北村暁夫, 伊藤武編
出版社	ミネルヴァ書房
出版年	2012
ISBN	9784623063772
教材費	

参考書5

書名	イタリア文化55のキーワード
著者名	和田忠彦編
出版社	ミネルヴァ書房
出版年	2015
ISBN	9784623072682
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	△
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB7885	ナンバリング	KB-HUM-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間科学				
担当教員（ローマ字表記）	塚原 伸治				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

現代民俗学

授業の概要/Course Overview

民俗学と聞けば、古くさい文化について扱う学問、あるいは古いものを穿鑿する学問という印象があるかもしれない。しかし、実際の民俗学は、私たちが生きる現代社会や日常について探究する学問へと大きく変貌しつつある。この講義では、民俗学にはじめて触れる受講者を対象に、現代民俗学の視点について概説する。

キーワード/Keyword(s)

民俗学、伝統、近代、日本社会、現代

到達目標/Learning Objectives

（１）民俗学の視点から私たちの日常を問い直すことができる。
（２）民俗学の近年の研究動向について理解する。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回 シラバスを用いたガイダンス・この授業の方針 第2回 民俗学とはなにかー視点と方法ー 第3回 民俗学とはなにかー日本の民俗学史ー 第4回 伝統とはなにか 第5回 現代社会と伝統ー創られた伝統ー 第6回 現代社会と伝統ー老舗の近代ー 第7回 伝統を生きる 第8回 まとめとテスト
【授業外学習】 ・ 授業後に教授情報ポータルシステムに授業用パワーポイントをアップするため、目を通して復習すること。 ・ 講義中に主要な文献や研究者に言及するので、目を通すことで、理解を深めてほしい。 ・ 本講義は暗記によって知識を増やすことを目的としていない。民俗学的な視点を得ることで、これまでとは違った見方で世の中のことを考えられるようになるのが目的である。復習ではそのことに注意しながら、身近な日常について民俗学の視点から考えてみるというトレーニングをしてほしい。 【アクティブ・ラーニング】 ・ 毎回、授業で理解したことや疑問点をリアクションペーパーとして提出する。各回の講義においてリアクションペーパーの内容に適宜言及することで、理解をより深めることを目指す。

履修上の注意/Notes

・授業中の積極的な発言を望みます。質問等についても積極的に受け付けますので、授業終了後あるいは、適宜メール（アドレスは授業中に提示）にてアポイントメントをとってください。

情報端末の活用

授業中にPCは使用しない。ただし、ノートの代わりにPCやタブレット等を使用することは認める。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：民俗学の歴史と現状について十分に理解し、現代民俗学的な視点をもって現代社会の諸現象について説明することができる。
A：民俗学の歴史と現状について理解し、現代民俗学的な視点について説明することができる。
B：民俗学の歴史と現状について理解しており、説明することができる。
C：民俗学の歴史と現状について、最低限の理解をしている。
D：現代民俗学の歴史と現状について理解していない。

成績の評価方法/Grading

授業中に提出するリアクションペーパー：50%
期末試験：50%

教科書/Textbook(s)

備考	教科書；特に指定しない
----	-------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	〈人〉に向きあう民俗学
著者名	門田岳久, 室井康成 編
出版社	森話社
出版年	2014
ISBN	978-4864050654
教材費	2300

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

○

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7886	ナンバリング	KB-HUM-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間科学				
担当教員（ローマ字表記）	細川 美由紀				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

心理学入門

授業の概要/Course Overview

「心理学」とひとことで言ってもその領域は多岐にわたります。この講義では、これらの心理学の領域の中から代表的なトピックスを学ぶことを通じて、私たちの日々の行動や心の動きを振り返ることや、自分や周りの人たちを理解するヒントを得ることをねらいとしています。

キーワード/Keyword(s)

知覚、記憶、学習、情動、適応、性格

到達目標/Learning Objectives

- ①心理学で用いられる基本的な用語や概念を理解することができる。
- ②講義で学んだトピックスについて、自分の行動や日常生活の事象と結び付けて考えることができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンス、心理学とは何か

第2回：知覚・感覚の心理学

第3回：記憶の心理学

第4回：学習の心理学

第5回：情動の心理学

第6回：適応の心理学

第7回：性格の心理学

第8回：テスト(45分)、テストの振り返り(45分)

【授業外学修】

（１）各授業で取り扱う内容について、キーワードで示してある用語について、心理学に関連するテキスト類の該当するトピックスを読んでおくことが望ましい。

（２）授業後、新たに疑問に感じたことなどは、テキストや学術論文等を基に調べることが望ましい。

【アクティブ・ラーニング】

第2回～第7回：（小課題）により自身の身の回りの出来事をからめながら授業の振り返りを行う。

第2回・第3回・第7回：（実験のデモンストレーション）により心理実験を実際に体験する。

第4回：（クイズ形式授業）により一部の授業内容をクイズ形式にて問う。

履修上の注意/Notes

30分以上の遅刻は欠席とみなすので注意すること。個別の質問等は授業中および終了後に受け付ける。

情報端末の活用

--

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 心理学の基本的な知識と考え方を十分に修得し, さらにその仕組みについて説明できている。
- A : 心理学の基本的な知識と考え方を修得し, さらにその仕組みについて説明できている。
- B : 心理学の基本的な知識と考え方を概ね修得し, さらにその仕組みについて説明できている。
- C : 心理学の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており, さらにその仕組みについて説明できている。
- D : 心理学の基本的な知識と考え方が修得できておらず, さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

第8回目に試験を実施する。評価における比率は、テスト得点70%(評価の観点は到達目標の①)、授業の際に実施した小課題30% (評価の観点は到達目標の②) とする。なお、提出されたレポート(任意)の内容により、最大10点まで加点される場合がある。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書 ; 特になし
----	------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB7888	ナンバリング	KB-HUM-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	歴史・考古学				
担当教員（ローマ字表記）	瀧澤 利行				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

日本の医療史

授業の概要/Course Overview

日本の医療は、中国大陸や朝鮮半島の医療文化の影響を受けながら，江戸時代以降に独自の発展を遂げてきた。明治維新前後からドイツ医学，第2次世界大戦以降はアメリカ医学の影響を受けながら，今日では平均寿命が世界でも最高水準の国になっている。そのような成果を出すことができた要因とそれにもかかわらず存在している日本の医療の課題について，医療の歴史のトピックスの中から考察する。

キーワード/Keyword(s)

日本の医療思想，医学教育，中国医学，ドイツ医学，アメリカ医学，医療文化

到達目標/Learning Objectives

1)日本の江戸時代以降の医療の発展の特徴を説明することができる。 2)明治以降の日本の医学の近代化の影響が今日の医療システムに与えている影響を説明することができる。 3)日本社会にとっての望ましい医療のあり方について自分の意見を述べるができる。
--

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンス，医療とは何か ― 【授業内容】医学・医療・呪術の概説を行い、医学の歴史的発展段階を学ぶ。 【授業外学修】過去に履修した高等学校科目「日本史」における江戸時代の文化史について，確認しておくこと。	
第2回：江戸時代の医療 【授業内容】江戸時代の医療の実像 ―日本の伝統と西洋文化の影響― 【授業外学修】過去に履修した高等学校科目「日本史」における江戸時代の文化史について，確認しておくこと及び 業内容のプリントによって医学の発展形式について確認しておくこと。	前回の授
第3回：幕末期の西洋医学受容の実態を知る 【授業内容】映像によって江戸時代における西洋医学知識の受容の実態を学ぶ。 【授業外学修】前回の授業内容のプリントによって江戸時代の医学の概要について確認しておくこと、および江戸時 西洋医学受容の背景をインターネットなどを通じて各自知識を深めること。	代後期の
第4回：明治維新と医療 科学的医療の受容と展開 【授業内容】明治維新以後の西洋化の流れの中での医学の急速な近代化の過程を学ぶ。 【授業外学修】前回の授業内容のプリントによって江戸時代の医学の概要について確認しておくこと、および明治維 的意義について各自で認識を深めること。	新の歴史
第5回：西洋医学の中の日本の自立 【授業内容】西洋医学の影響のもとで日本医学が自律性を有していたことを映像を通じて学ぶ。 【授業外学修】前回の授業内容のプリントによって明治時代の医学の概要について確認しておくこと。	
第6回：大正・昭和前期と医療	

【授業内容】第1次・第2次世界大戦下の日本の医療の展開を学ぶ。
【授業外学修】前々回の授業内容のプリントによって明治時代の医学の概要について確認しておくこと。
第7回：戦争と医療
【授業内容】医学が戦争の遂行に関与した歴史を映像を通じて学ぶ。
【授業外学修】前回の授業内容のプリントによって大正・昭和前期の医学の概要について確認しておくこと。
第8回：現代の医療
【授業内容】第2次世界大戦後に発展した戦後日本の医療の特徴と課題を学び、現代の医療問題を考える契機とする。
【授業外学修】前々回の授業内容のプリントによって大正・昭和前期の医学の概要について確認しておくこと。

履修上の注意/Notes

授業中にパワーポイントを使用することがあるので視力・聴力等に課題のある学生は教室の前方で受講するように努力してください。
--

情報端末の活用

情報端末は使用しない。

成績評価基準/Evaluation criteria

A＋：日本の医学の発展に関する基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A：日本の医学の発展に関する基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B：日本の医学の発展に関する基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C：日本の医学の発展に関する基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D：日本の医学の発展に関する基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

授業の内容にかかわる5つの課題から1つの課題を選択し、小レポートを作成する。（100点）
--

教科書/Textbook(s)

備考	参考書：酒井シヅ『医学史への誘い 医療の原点から現代まで』診療新社，2000年 参考書：新村拓『医療化社会の文化誌 生き切ること・死に切ること』法政大学出版局 1998 参考書：新村拓『日本医療史』（編）吉川弘文館 2006
----	--

参考書/Reference Book(s)

参考書1	
書名	『医学史への誘い 医療の原点から現代まで』
著者名	酒井シヅ
出版社	診療新社
出版年	2000
ISBN	
教材費	
参考書2	
書名	医療化社会の文化誌 生き切ること・死に切ること
著者名	新村拓

出版社	法政大学出版局
出版年	1998
ISBN	
教材費	

参考書3

書名	日本医療史
著者名	新村拓
出版社	法政大学出版局
出版年	2006
ISBN	
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB7889	ナンバリング	KB-HUM-132-GEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	メディア文化				
担当教員（ローマ字表記）	アンドレエフ アントン				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

Vlogs as Internet Media (B)

授業の概要/Course Overview

Improve English and presentation skills as well as media literacy through the production of vlog episodes

キーワード/Keyword(s)

Internet, media, vlogs, production, presentation skills

到達目標/Learning Objectives

Students are able to produce vlog episodes on relevant topics

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1st lecture : 【Classwork】 Self-introductions. Introduction of the course. Review of “Vlogs as Internet Media (A)” . About vlogs as Internet media. Students confer and decide topics of videos to be produces as well as teams in charge.

【Homework】 Team 1 prepares the script of Video 1.

2nd lecture : 【Classwork】 ①The class discusses proposed script of Video 1, suggesting improvements ② Rehearsal and possible recording of segments, deemed to be ready.

【Homework】 Team 1 records and edits Video 1. Team 2 prepares the script of Video 2.

3rd lecture 【Classwork】 ①Viewing and critical discussion of Video 1 ②The class discusses proposed script of Video 2, suggesting improvements ③Rehearsal and possible recording of segments, deemed to be ready.

【Homework】 Team 2 records and edits Video 2. Team 3 prepares the script of Video 3.

4th lecture 【Classwork】 : ①Viewing and critical discussion of Video 2 ②The class discusses proposed script of Video 3, suggesting improvements ③Rehearsal and possible recording of segments, deemed to be ready.

【Homework】 Team 3 records and edits Video 3. Team 4 prepares the script of Video 4.

5th lecture 【Classwork】 : ①Viewing and critical discussion of Video 3 ②The class discusses proposed script of Video 4, suggesting improvements ③Rehearsal and possible recording of segments, deemed to be ready.

【Homework】 Team 4 records and edits Video 4. Team 5 prepares the script of Video 5.

6th lecture 【Classwork】 : ①Viewing and critical discussion of Video 4 ②The class discusses proposed script of Video 5, suggesting improvements ③Rehearsal and possible recording of segments, deemed to be ready.

【Homework】 Team 5 records and edits Video 5. Team 6 prepares the script of Video 6.

7th lecture 【Classwork】 : ①Viewing and critical discussion of Video 5 ②The class discusses proposed script of Video 6, suggesting improvements ③Rehearsal and possible recording of segments, deemed to be ready.

【Homework】 Team 6 records and edits Video 6.

8th lecture : ①Viewing and critical discussion of Video 6 ②Wrap-up session (No test)

履修上の注意/Notes

情報端末の活用

Students are adviced to bring WiFi-enabled mobile devices with them.

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : Student's knowledge and performance exceed the learning objectives
A : Student's knowledge and performance perfectly meet the learning objectives
B : Student's knowledge and performance almost meet the learning objectives
C : With a continuous effort student's knowledge and English are bound to meet the learning objectives
D : Student's knowledge and performance are far from meeting the learning objectives

成績の評価方法/Grading

contribution to classroom work(50%) video production(50%)

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	△
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	◎
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

English

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7891	ナンバリング	KB-HUM-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	歴史・考古学				
担当教員（ローマ字表記）	千葉 真由美				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

江戸時代の村と人

授業の概要/Course Overview

江戸時代の村と、村に住む人びと（百姓）のすがたを、歴史学の最新の研究成果を紹介しながら講義する。
古文書や画像史料を読み解きながら、村の運営方法、村で作成される文書、村の争いと訴訟、女性の活動、子育てや介護といった家族が抱える問題などを取り上げ、村からみた社会を考える。

キーワード/Keyword(s)

江戸時代 村 百姓 文書 訴訟 家族 女性 子育て 教育 介護

到達目標/Learning Objectives

中学や高校で学んできたような、「支配される」イメージだけではない、村や百姓の営みが理解できる。
当時の人びとが自らの生活を維持、発展させるための努力や活動、意思を知り、子育てや介護の問題など、現代社会が直面している問題と関連づけて考察できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンス、江戸時代の村のしくみ
第2回：村の運営と村役人
第3回：村と文書
第4回：争論と訴訟
第5回：家と女性
第6回：子育てと教育
第7回：老いと介護
第8回：まとめ 村からみた江戸時代

【授業外学修】
・第1回目の授業の前に、高等学校教科書（日本史B）の江戸時代の村についての記述を確認しておくこと。
・第2回目以降は、授業で扱う語句について事前に辞典等で確認しておくこと。授業後は、毎回示す参考文献を読んで理解を深めること。

履修上の注意/Notes

講義内容のまとめと各テーマに対する問題意識を記入する用紙を毎回配布します。自分の意見が明確になるような知識を増やすため、授業の中で示した参考書も積極的に読むようにして下さい。
著しい遅刻は欠席とします。

情報端末の活用

- ・ 1 ～ 7 回目での情報端末活用はしない。
- ・ 8 回目で授業アンケートを実施する予定のため， P C，スマートフォン等を持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A +	江戸時代の村と人についての基本的な知識と考え方を十分に修得し，その仕組みを説明できている。
A	江戸時代の村と人についての基本的な知識と考え方を修得し，その仕組みを説明できている。
B	江戸時代の村と人の基本的な知識と考え方を概ね修得し，その仕組みを説明できている。
C	江戸時代の村と人の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしている。
D	江戸時代の村と人の基本的な知識と考え方が修得できていない。

成績の評価方法/Grading

各回の小レポート（講義内容のまとめと問題意識）：40点（各5点×8回）／レポート：60点
--

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：特に指定しない。
----	--------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	近世村人のライフサイクル
著者名	大藤修
出版社	山川出版社
出版年	2003
ISBN	9784634543904
教材費	

参考書2

書名	百姓の主張―訴訟と和解の江戸時代―
著者名	渡辺尚志
出版社	柏書房
出版年	2009
ISBN	9784760136858
教材費	

参考書3

書名	近世の「家」と家族―子育てをめぐる社会史―
著者名	太田素子
出版社	角川学芸出版
出版年	2011
ISBN	9784047021525
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

高等学校現場における教諭経験のある教員が、その経験を活かして、具体的な学習内容と学習方法について指導する。

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--